911.3
八
2

[illegible]

秋目録

立秋　初秋　今朝秋　文月　天川
七夕　星合　七夕雨　貧小袖　盆
盆市　盆月　迎火　迎鐘　魂祭
施餓鬼　墓参　灯篭　高灯篭　送火
摂待　生身魂　踊　衝突入　捨扇
花火　相撲　御射山祭　残暑　初嵐
炶風　稲妻　霧　露　桐一葉
柳散　木槿　萩　朝顔　秋海棠

女郎花　芑　尾花　茯　蘭
藤袴　拮挭　鼠尾草　芭蕉　葛花
真葛　吾亦紅　露草　野菊　曼珠沙花
秋草　草花　稲花　早稲　青瓢
冬瓜　西瓜　葉生姜　紫蘇　唐椒
鴆吹　鷹打　虫　蛬　松虫
鈴虫　蜱　竈馬　螽　蜻蛉
蟷螂　簑虫鳴　藻虫鳴　蜩　秋蟬
烁蝶　秋螢　秋蚊　秋蠅　鮭
鮞　鱸　鰍　落鮎　鰯曳

八月　葉月　八朔　田面日　彼岸
放生會　初月　三日月　待宵　名月
今日月　良夜雨　良夜蝕　十六夜　月見
月　雨月　秋月　月秋　駒牽
駒迎　初汐　秋日　秋夜　長夜
夜寒　肌寒　朝寒　秋寒　露寒
烁雲　秋山　秋水　野分　秋暮
擣衣　案山子　鳴子　引板　添水
稲　田刈　于稲　落穗　栗
黍　芋　罌餘子　柿　熟柿

蔦　蔦紅葉　初紅葉　芙蓉　木犀
穗芦　刈萱　雞頭　紫苑　花野
秋野　蕎麥花　蓼花　烏瓜　木綿摘
藥堀　木賊刈　鹿　鹿笛　初雁
雁　鴫　鶉　啄木鳥　稲雀
鵙　乙鳥帰　渡鳥　鶺鴒　蚍入穴
新余　新酒
九月　重陽　菊酒　後雛　十日菊
舛市　十三夜　後月　名殘月　御遷営
野営別　秋雨　露時雨　秋時雨　露霜

秋霜　紅葉　柿紅葉　草紅葉　菊
梅嫌　末枯　柚　梨子　木實
栗　椎　茱萸　通艸實　菌
松露　落水　崩簗　網代打　行秋
暮秋　九月尽

冬目録

初冬　十月　神無月　神留主　玄猪
十夜　達磨忌　大師講　御命講　御取越
翁忌　惠比須講　神迎　小春　小六月
冬日　冬夜　冬月　初時雨　時雨
夜時雨　松風時雨　初霜　霜　霜夜
初雪　冬雨　木枯　冬さる　冬枯
寒　冴　胼　輝　爐開
口切　巨燵　冬搆　冬篭　埋火
火捕　火鉢　囲炉裏　榾　炭竈
炭　煖婆　帋衣　蒲團　衾
頭巾　足袋　納豆　山茶花　枇把花
茶花　帰花　冬柳　冬牡丹　水仙
寒菊　石蕗花　冬芒　枯芒　枯尾花
枯荻　枯菊　枯草　冬草　枯芦
枯蓮　麥蒔　蕎麥刈　大根曳　蕪
干菜　葱　木葉　落葉　紅葉散
冬木立　冬野　枯野　朽野　冬山
冬田　冬川　水鳥　鴨　鴛鴦
雁鴨　千鳥　梟　木兎　寒苦鳥

鷦鷯　冬雀　冬雁　冬鳥　冬蝿
鯨　河豚　鰒汁　杜父魚　生海鼠
杜蛎　絪代守　柴漬　夜與引
霜月　冬至　髮置　神樂　子祭
吹革祭　御火燒　空也忌　鉢敲　寒念佛
報恩講　芝居顔見世　雪　雪見　夜雪
吹雪　志卷　霰　霙　氷
氷柱　凍　雪車　掟　冬梅
寒梅　冬椿　鷹　鷹狩　煖鳥
鳥[illegible]　鷹落艸　鷹力艸

師走　川[illegible]　臘八　佛名　事始
入寒　寒雨　寒月　藥喰　乾鮭
年内立春　追儺　於賣　節季候　姥等
煤掃　餅舂　衣配　年市　年木
年用意　年忘　古暦　春待　来春
行年　岡見　年篭　歳暮　大年
大晦日　年夜　除夜

俳諧新五百題巻之三

田喜蓁護物輯

○秋之部

立秋

馬買の小笠に杖のとり日の照　白雄

途ち桶のくまハ夏秋となるにけり　猨左

秋とりや火をたつ門の新ぞ弟　土卯

けふの秋立や稲葉のはしの家　申翁

杖立てたゝせおなく朱イケリ　三顧

初秋

初秋よしとて塩のなく　可都里

たつ杖の濃志しそし小蔵の照　笘菴

たつ蜂にさしハ何の末をの艸か　葛三
初何きぬ蔬見て通る事のうへ　叙来
さつ秋や猶に濡るる唐からし　丹霞

今朝秋

鮎の巣に面をそしむやはさの秋　存義
松かけやてる引なられはさの蜂　李川
水にしく鰍のかけもきさの蜂　友國
はさ秋ゝ世へ大俺し凡の花　東李
樹鷹の雲にくらやゝ鶴の秋　護物

文月

草ハ草に蓮なと咲て文月ゐる　秀彦
文月ハなりたをるぬ名なるへし　牛心

ふる月や母の白髪のうつくしき　瑞馬
文月の小艸なつかし鶴たちろ　菊塢
文月もるぬ野町の氣供書　護物

天川

天の川西今の雲をうたくしき　乙因
用もなき舟宗出けやその川　弓雄
破ちかくなきてゐるし天の川　乙彦
虹の鎖天の川とそ来にはなし　楽水
たきしく水にとらやその川　樗白

七夕

七夕や夕ゆ月のむものいくてす　万都里
家志の父母をしし七日の夜　篤光

七夕や芒なの先く川むかひ　茶靜

星合

笠のたゝは風のまゝ家かにしの雲　乙二

星合や[illegible]出てゝる[illegible]の人　圭々

[illegible]はかけるや星は麻ゝ積　一慥

川鰺も星まつ良か苔のうへ　南井

[illegible]合や[illegible]干捨し鞠ゝ波　菊塢

七夕雨

かれの尼もかつかし星の面　江戸　雪人

星の[illegible]舊の面かや来ぬへき　而男

[illegible]面舟流しゝる[illegible]　何丸

貸小袖

星まかして生れた[illegible]の裸か有　宗雨

[illegible]や梅干くまきかし小袖　巣兆

盆

[illegible]せ見てぬるさん貸小袖　訓山

人々へつて恵にはいゆし盆ふる[illegible]　春鴻

[illegible]ハ二おさしかり盆あふき　士朗

草のたに油かけるを盆の膚　詠帰

[illegible]やとこを伸て盆にある　洞々

盆市

[illegible]ちと渡るや盆用を　[illegible]

[illegible]て明るきあく盆供う[illegible]　聚年

草市や[illegible]も[illegible]　雪雄

[illegible]や[illegible]や盆用を　[illegible]

盆月　盆の月人の中云いはほとく　澧水
筆とくの時の家にしし盆の月　みち彦
大王の敵もそゆるや盆の月　時喜雨
書父入に後は更ハなし盆の月　石芝

迎火　迎火や上様へむけて月かもる　鳥酔
むかしむかや乗さら定て見えぬ家　みち彦
迎火や樹にかく物の何をまつ　棹歌
むかし火や山根をとる草のゆく　奥と皮
迎火をちがし月入や蓮の香　秋耳

迎鐘　月よりもいそがしかりよ迎り孫　双湖

山に海に所てハなかれとむかし猿　成之
古今にてハ詠ふく萩よ迎り孫　護物

魂祭　魂祭やこの世の果ち菓の露　士朗
ぬる夫の来る夜蒼むか女郎花　真恒
魂祭に幄ふき清る夜明ぶ　季道
塗ち盆に併ふたり魂まつり　松夫
氣簟もそ然ぬるや魂祭　琴女

施餓鬼　施餓鬼祭秋ハ志し雲のせくなる　宗居
七夕のきのふまきふの施餓鬼身　みち彦
巣の鰹施餓鬼の飯に夜ふとそり　鷗里

墓參

蟻の来るはかりを墓の瓜茄子　闌更

墓糸下結くれ移る寺の門　菊雄

志しぬ子に何をかけて墓糸を　楚狂

ちり安きむせ折てやせの糸　紫山

鳴ものに浮世さけしや墓糸　玉光

燈籠

むとしの燈籠在家の月ハとく消し　[illegible]

馬次のかりそりをさき灯籠ぞ　芳之

鷺の花北窪はかぬ糸や灯籠の火　可磨

教官を人むとしの燈籠かな　碩禹

灯籠のかけにさらやく釈子かな　一肖

高灯籠

老と里や稲葉の米北柳燈籠　蝶夢

[illegible]やうや灯籠のむかへ縁　白雄

来る魂のせとり来もかけてうや灯籠　柳几

松かきのうへに明かり揚灯籠　岱朗

月も松にもたりや霧のうや燈籠　石芝

送火

おくりとりや芒末里にあるなりに　嵐丈

送り火の消る夜こし杉の月　鶴峰

送り火や物見しぬせうに焚捨て　[illegible]

摂待

摂待に雇されぬへほとけぞ　雪雄

摂待の郭菓のうけ鶏尉ぞ　護物

生身魂　翌志ぬけ故いへれ生身魂　志けて
游る鶏の汝もそれか生身魂　文貫
手車のうしての月や生身魂　護牧

踊　ゑらと犬のおとり所越てまとりだ　蕪村
おとれよと踊の中を通らせり　逞素
呼合てゐる踊のけりれか取　無一
周もなきなき世界や盆おとり　亀洲
おとり子の月をいそしや渉し舟　江川（おとり女）

衝突入　ほとゝ入やこハ青を浅る面のさむ　存義
ほとゝ入や素も蘇しく小盆　冷水

捨扇　一杯の菓もなのくし扇おく　乙二
扇を影やそこらに鶏の香　光浪
指に折京の伝麻や捨扇　菊後
月かけや扇ゆらるく草の宿　一雨

花火　まさしくといつか果たは花火かな　玉珂
雨雲のさハく浦田の花火かな　義香
後とのゝ花火もなかき仕舞だ　兎水
これをさへいろとる世界も花火売　雨色
れもちく青や花火の下くらこ　菊塢

角力　そ付と家れて負たり角力元　花陶

かゝ後の松にも名を書き寄ま撲　挂技
投て罪か白髪にあるかまましれ　五陵
よき里のよ都を云事や角力くる　素撲
笑をもつ手見渡しさや角力れ　曲阿

御射山祭

御射山やきのふハ花ゆへ長里　蘭更
神ゝかもの一むら尺えぬ積花作　車蓋
子も親も霊にまゐまて積米蔵　石芝
たゝをとの嶋に法をも御星ゝ　[illegible]
山梔子の花をとん付ゝ御星ゝ　葛三
蜀黍のむつかし けふる御星ゝ　寒松

草稈の田をよく読む御暑か始　護物

初嵐

照なかる日のち清ゑ初ゝし　嘯山
門紹の縁をとつれつとり嵐　[illegible]
かゝし砧の利をゆゝしも初あらし　涼濤
ちつ嵐いそのゝ小貝も口くふ　奇石
けちめてて松にも白し初嵐　炉扇

秋風

親もこぬ前の嵐よ所よの嵐　乙二
秋ゝきぬはしかゝ賣のくるか町　二秀
売書か柴打寄や妹のかせ　大常
秋風や[illegible]る筆のさや　梅間

あ[illegible]や小家の多き里をふく　杜口

稲妻

稲つまや一村[illegible]の宵の[illegible]　普記

いな妻に出しの[illegible]　奥刀

稲妻やかりとしてハ軸からゆる　桑山

以ゆ[illegible]ハ[illegible]の[illegible]　旧友

稲妻や[illegible]舟の[illegible]　[illegible]雁

霧

[illegible]の[illegible]へ入す車の[illegible]　士朝

[illegible]霧に[illegible]　[illegible]助

[illegible]の[illegible]　玉珂

舟曳の肩[illegible]山の霧　松蘿

朝霧や馬の嚔る[illegible]　女ちりき

露

秋の日ハ[illegible]草の露　六車

初露やふとりてゆる寺の犬　五葉

[illegible]ものやそもく[illegible]の露　川二

[illegible]火もきぬや露の宿　五縄

[illegible]の[illegible]や山の[illegible]　麻彦

桐一葉

[illegible]人[illegible]桐一葉　月居

[illegible]桐の[illegible]葉[illegible]　平山

[illegible]桐一葉　岱松

草[illegible]桐の一葉[illegible]　女[illegible]

柳散

桐一葉ちりて手くちる人に似し　風谷

浮鴨の足にからみしちる柳　蘭く

黄昏や皆うつりてちる柳　東一

舟ぬきさをにちりしく柳散よけり　耳行

見る人もなくて通りにちる柳　玉珂

柳ちるや松のさひ江の日もすがら　ちりさや

木槿

日ハ花の中ちり重る木槿かな　五明

きゑし火をとる手にさわし木槿哉　宜啓

ひる来て咲ぬ小窗の夕木槿　巨氷

折ゝても後ハ曲るゝくさく木槿　呂律

萩

折よせて花のうつきよ白木槿　さく雄

夜の音たえハそれとし門の萩　遅月

浪にちる萩やそこら秋を告す　蕭雪

露の萩やちる音のしつかなれ　寸陽

影うきの余りぞちるか萩の花　里外

志ら萩や留志らぬ庭のゆかれ哉　美山

朝顔

朝かほや荒れし門に咲にけり　獲菊

朝白に翌の咋しれ皺手かな　雞周

朝かほの咲たるや寐ての業　土蓮

朝白もよく咲かよ知りて咲く　蓬松

のさかほやしほかけぬ牛の角　巨洲

秋海棠

秋海棠その葉ハ何を片割し　鳥酔

姫海棠芝より花に出にけり　五明

毋玄蝸に秋海棠を寄見せ　春鴻

片よりぬ色をさまし秋海棠　嵐庭

むらの角や秋海棠のさく日とす　爲徑

女郎花

はきまハ赤うしかけや女郎花　斗山

伸ひてもやうつ行ひぬめ花を　茶静

夕かけちらし朝かけのおそ物へし　双湖

草に引くてハ尺まゆを女郎花　而男

手もと咲むにハゆらしおそ物へし　護物

薄

世をまふふゆらや花のむら芒　菊所

遠ゆれのすゝや芒ハ九月　我竟

みすゝ我にうえ二夜まて萬る日れ　菊成

ものいへ夕かけ尺まつ夕ゆ薄　百爾

人ハ貧風なきくれの茶芒　五貢

尾花

夕ゆふる家ハ尾花にかくれけり　祐昌

ちりまてハ尺とけもぬ尾花ぞ　屋烏

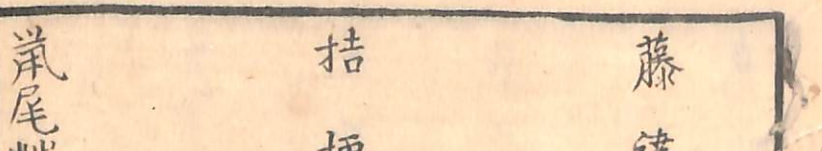
尾花ちる雲やまゝ生る雨の月　草臺

てゝ虫のうつ行ちさかる尾花ぞ　茶静

藤袴

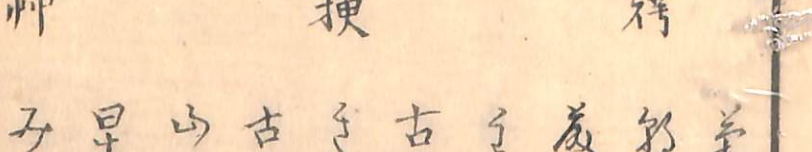
葉のあや鶯飼の讀こゆる姫　草夫

郭公は鶯のふくこむ蘇くり波　巣兆



夜袴よしにる名にて無れ也　葛三

主知てむかうひぬ夜袴　巨昇

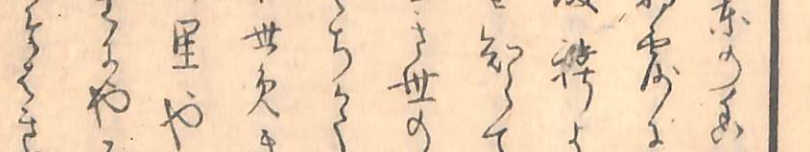


古き世の花て有らめふち袴　一肖

桔梗

きちかうもうゆる花屋か持仏也　蕪村

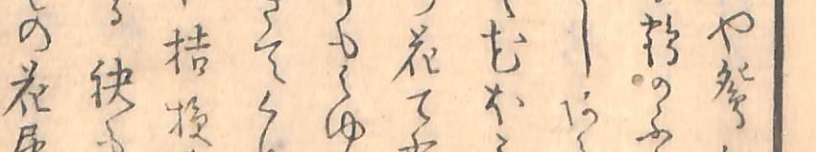
古世欠きてくねらぬとハ桔梗ぞ　みち彦



山里や桔梗くりとも賣よくる　葛三

早くやる袂もそめぬ桔梗かな　護物

嵐尾艸



みちくさの花屑もなくて無也　春鴎

夕面のきまもいてぬ屋花かな　倫市

蔬

淵の青の蔬よりむくさ家居かな　馬印

飯捲や下葉をれたむ風の蔬　成美

蔬のうへ立ち立ち月夜かな　菊也

ふたり家の中に立ちて蔬のあり　麻直

世をもしく人ハ蔬のうへハかな　杉長

蘭

月夜て先知る葉の白ひかな　士朗

葉白し鯨のかまひにくけれと　乙二

石菖も飽たすたれや葉の茶　茶静

葉のまゝのさやかに紫ぬ夜の紅　芳居

葉のまゝや鶯飼の隣にゆる垣　草夫

藤袴

朝霧に鶴のふくこむ蘇しか波　巣兆

夜袴よしにる名をて舞れ也　葛三

主知ってむかうひぬ夜袴　巨昇

古き世の花て有るめふち袴　一肖

桔梗

きちかうもしゆる花屋か持仏也　蕪村

古世欠きてくねるぬとハ桔梗ぞ　みち彦

山里や桔梗くりとも賣にくる　葛三

早くやる袂もそめぬ桔梗かな　護物

嵐尾艸

みちくさの花屑もなくて舞也　春鴎

蔦花

蔦屋をや黄を探すてる竈の口　宇橋
みをさきぬ行かの代人を罹ひ侍　慶南
こそは我が咲き水鶴も書をくへよ　文貫
蔦屋艸や沈とも法ぬ水の疲　双湖
破らせをんこのおとものくさし　樗良
芭蕉葉にのせて金ひし鶴ひろ　烏頂
吹そへて夕ひかりする芭蕉かれ　晋和
大かれ杖よ芭蕉のかけほうし　蔦文
青天に母もにゆる芭蕉かな　亀山
うせハこれ蔦の花こ　おもてなる　且こ

真葛

雨をよふ小さ蛇や葛の花かつる　竹馬
なら石の手ハ倒をひり葛の花　暁河
よ春日山も簑先を来ふる葛の花　古玄
葛の葉の根を白ハなる細角ぶ　蕪村
葛のを枯らしぬ杖ハ涼しいそ　孝彦
葛の葉にふと天出しひり蝦の売　まち雄
ひろしと夕日に移ふる其葛ぶ　八朗

吾亦紅

大鞋に雨ふ雨をとれもかう　杜影
吾亦紅霧に垂れらふかけもなし　蘭亭
谷の草のひとりしるや素木香　米室

虫にさへ死をてらしけれもうう　こち彦
夕ゝ事も露もてゆかや吾　宗和　杜英

露草

露くさやむ伶もかき　道のさく　保吉
清ゆ草の葉を消ふ夜の雲　闌更
露草の露に撲ふぬ樋の露を　扇賀
露草に粉夕ゝけの　ふ清逸　美山
露艸の露に追きくれはそ　ちゝ志

野菊

引ふ事ゆや世哉ゝ草ぬ　みち彦
宇をと見てこれ世菊も白ひけり　掉歌
さけし清ももて来て植し世菊　盡風

栗稈に咲ましまゝ我世菊の姿　雀角
世哉く咲日に出ふ稀ゝ懐の花　アう

蔓珠沙花

波人出ゆさ笑ひ持ぬ也　乙二
絶の家孤調をしや蔓珠沙花　玉光
山伏の山の迎ひや蔓珠さけ　宇橋

秋草

秋のくさ人を知らぬ　舊三
色ゆのこほれてハなし草の秋　微席
盈龍のとし清きなりしかきの景　濂川
柴の戸にこの時秋あき草の姫　茶静
露なしの露の宇をこゝや露のく草　子代

草花

焼しさまさ云しくおりぬ艸の葉　乙二
畑にしき草にも花の咲まりし　菊女
苗をまする兎の巣にも草の葉　鱗々
艸の花何か恵しき風なふく　笙々
尾ちやよくも集見し艸の花　岸芦

稲花

人の人のはまこそおりれ稲の葉　吐月
草の積もおひさ合りし稲の花　菊所
見ぎりの果もこえりて稲の花　二風
霧にまてちらしの花来て稲の花　米寸
雷の落て沙法おしいまの花　長翠

早稲

よさ里や門口おそしも早稲日和　梨翁
早稲の香やかさうこゝゆる野一ツ　時雨
早稲の香に並ぶや鶴の家つき　宜彦
早稲の香房ハ戸さゝぬ房月夜　爲命

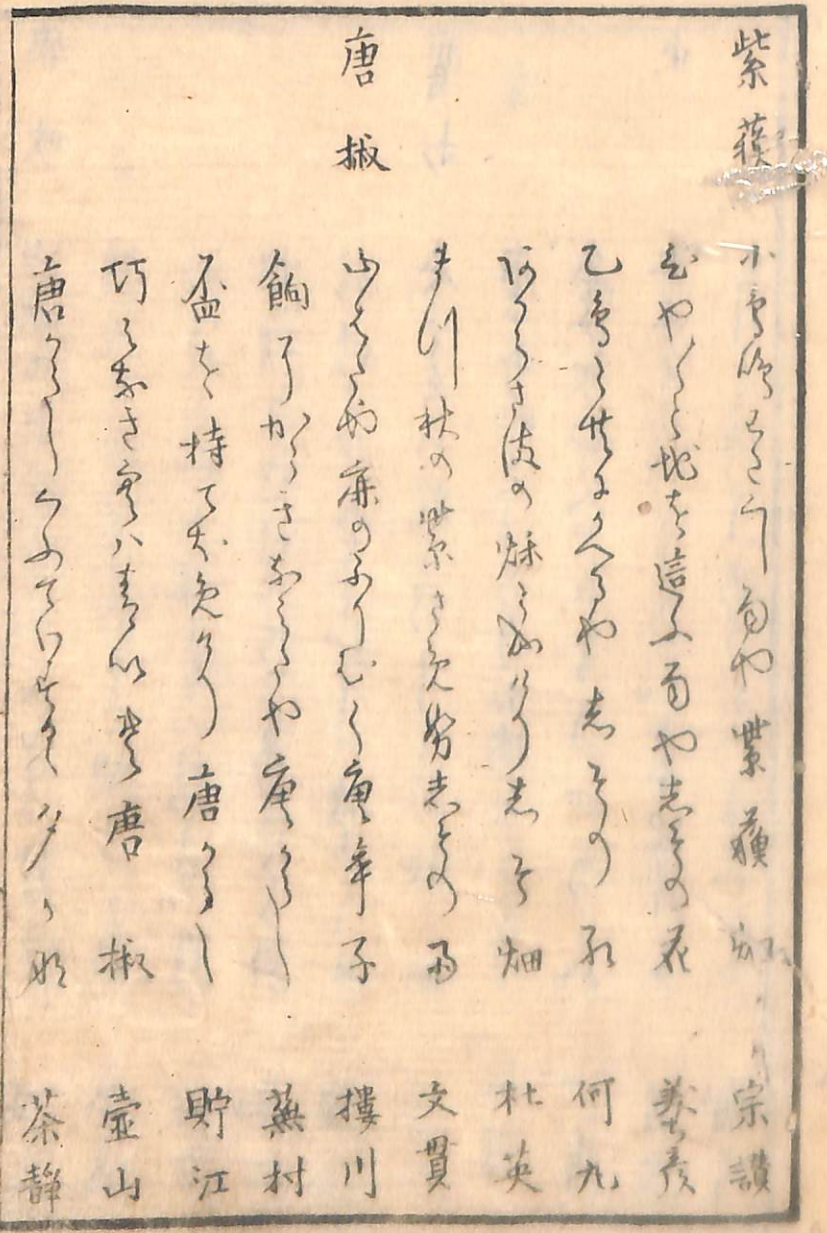
青瓢

そ瓢ハ土に付かし　稲ふく風　闌更
この家も瓢のつるのよそひかな　左琴
まゆ瓢桂子の世に日ハ多る　夢南
岸とりの歌よくまてる瓢かな　國村
よき人ハうそも大きな瓢かな　芳居

冬瓜

冬瓜汁宮也の寝を新ひけり　白雄

西瓜



雨秋さしたりうなへ　冬瓜汁　こち彦
霧しのかりぬる味よ　冬瓜汁　双湖
面うちふ地窪出来る　冬瓜ぞ　雉啄
用う波し　西瓜をぞやす　縄くちを　みち彦
鞍壺に西瓜ぞとりや　疾ア馬　足彦
あらしも慰斗もうへしぬ　西瓜ぞ　夢南
屋る月に似たる　西瓜の切跡ア　陸奥　如山

葉生姜

葉生姜やまとるうふ　酒のあり　白雄
葉生姜や藪をとし　鉄の喉は　一蕙
葉生姜や蚊蚋にくるまるまも　難　可磨

紫蘇

小雪ゆるさらし　面や　紫蘇　知　宗讃
ぞやくら地を這ふ　面や　志その花　蓼彦
乙鳥に世にかへるや　志その花　何丸
ゆらさ波の妹に　ゆりし　志そ畑　杜英
まし秋の紫さ　大勢志その　雨　文貫

唐椒

山くらの麻のかしむく　庵年子　樓川
餉てかうさおくるや　庵かし　蕪村
盃を持て　大夫ゆり　唐かし　貯江
巧こなさ　ハまるは　唐椒　壺山
唐かしらふてけそ　少ゆ　茶静

鳩吹

山伏の鳩吹きに入りけり　嘯山
鳩吹てくれたる後ろ　樋方の雨　春鴻
鳩吹の袖も濡るゝ　桂の陰　竹吾
椎樫に鳩吹くるあしたかな　凡二
旅僧にわかれてきゝし　鳩なく日　護物

鷹打

鷹うちの縁に打しく小松のな　掉歌
鷹打ぬ久しかり云浦土の宿　如翠
鷹打ぬ父ハ松ゐの一の人　一肖

虫

虫なくぬ[illegible]人もなし[illegible]　奥文
むしさ[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]　蘭窩

草の戸や臼も盗もむしの[illegible]　刃九
虫なくや田を[illegible]小の人[illegible]　周居
末[illegible]虫の[illegible]　[illegible]九

蟄

[illegible]　不騫
蓬生のいきれさまたゝや蟋蟀　蘿月
[illegible]　月蕉
[illegible]　桂丸
樹の[illegible]　暁河

松虫

草の露松虫[illegible]ゆく人の　宗讃
[illegible]ハ[illegible]　菓兆

杠虫や[illegible]笑の[illegible]　孤山

鈴虫

鈴虫に[illegible]すこ[illegible]　舛六

すゝ虫を[illegible]積藁も[illegible]　[illegible]

鈴虫に[illegible]秋の油煙の[illegible]　啓山

鈴むしや[illegible]合し小姑　護物

[illegible]井や鱆[illegible]　白雄

鱆

鱆の[illegible]　花川

鱆も[illegible]　[illegible]

鱆の[illegible]　葵亭

鱆の[illegible]　李尺

竈馬

[illegible]夜や[illegible]　尼諸九

[illegible]　奥徠

菓[illegible]　弗水

[illegible]　[illegible]

冬蝕

[illegible]　樗堂

[illegible]　乙二

川[illegible]　慮一

[illegible]　暁河

菓の[illegible]　有月

蜻蛉

[illegible]　玉珂

かさしこと情於のくるふ小溝かな　一蕙
おちしこと胡麻売たるこんほど　一峨
情於や盆供のきくる笠に付て　柳起
こんほうや何を狙曳の何との渡　護物
引よきて蟷蜋うつりぬ下ゑ苔　秀彦
蟷郎の手みしかるなる早かな　掉歌
来ばとよい蟷蜋のくる笋かな　輪之
蟷蜋やむしゑ〳〵と草に這ふ　まゝす
かはきるの跡て移るる小葉かな　千河
蓑虫鳴　みの虫ハ東山子の捨しなるへし　重厚

蓑虫ハ葉に住むしのたらかか　可都里
みの虫を芋や蓑の古ひ母　呉友
このむしは栗ともえまれなし　輪之
蓑虫の影もさそふ気杓杞の面　扇賀
象かしは嘴青もてくる葉屑ぞ　掉歌
ものむしや水の木葉をよせし嘴　石馬
住む虫の青さへ古ひて流るし葉　桃生
むくしや盆もるくる墓の松　蝶夢
蜩の夕かけ訪ひる小寺かな　秀彦
むくしやのまとせまはし暁の雲　葛三

蓑虫鳴

蜩

鯛やこえまくまての藪の藪　木海
はくらしや茅鼠にきゆる艸の月　輪之

秋蝉

松のせゝ晴ゆく杜にしつゝ行　青蘿
こまくのやこふもあらば烁の蝉　守一
烁のせゝ望をうゝえて日かけ待　東一
こまみしらなるにも秋し烁の蝉　楚挺
家家の低さゝゆるやゆきの蝉　[illegible]女

秋蝶

地うゝ度て這んともまれ杜の蝶　雁路
用ハなさぬ捨ひハさぬよ杜のてふ　青樹
もとゝそれも有ふ所ハなし杜の蝶　李翠

深切のさなきぬ草や杜のてふ　九皐
烁のてふ鶴ハ嵐のふり勢なを　石雞
杜ふくや稲葉の蛍ゑやくしゝ　[illegible]
金殿に清るつく杜のほとゝ　掉歌
川深や玄ゆりゝ杜をよふ蛍　凡二

秋蚊

ひかれ蚊の清よきしかり捨坊を　蘭更
杜の蚊やいろくに鳴虫もいるに　丈芝
うけとなきも杜葉もかの心杜の蚊を　女[illegible]
朝白のうけもよすりに啼蚊を　一肖

秋蠅

蠅ゆくに死ぬ日をとゝまり杜日和　曉臺

烽の縄夜さるのあるを失ひし　春鴻
草清かむ盆も過ぎりしかきの縄　詠帰
春清かさ人を保てる烽のさへ　竹馬

初鮭

さりし鮭に里の家に日定矢ゝ李　得雨
初鮭や蕨の小家もよい日和　さち雄
たらゝ子の霧と双ちん鮭清ぎ　宇橋
たらゝゝやむとりに寄る簑の霧　一肖

鰤

なよ井も清よいものゝ鰤つる　太無
百ゝ日や名に霧む鰤つる　宗讃
蔵かけを出る石に死しすこさぎ　ミち彦

鰍

狗人に並びく河原夕夜かな　蘭更
鰍まゆく夕のそゝやかしか鳴　葛三
押水や友波とさしく鳴鰍　万井
畑枝ハ夜の明年し鮭なく　杜蓼
谷かけやうちいつの月夜よと　万寿友

落鮎

夜行るしや落て人知る渕の鮎　白雄
花の鮎を柴にさして落るぎ　保吉
枯の鮎を柴に流まるれかり　春谷
鮎の脊や霧の落てもさしかゝ流　双湖
枯深し鮎にもうつる山のさし　太郎彦

鰯曳

けり蛇てとてもそちはくいとしぶ　万和
いかなるや此しの上の北とし弓　李尺
小鰯の味にたゞるや月見ゑ　梅壽
引そ見法烟や鰯をたゞ法の杜　文貫

八月

八月や風もこのまぬ法のこゝろ　秀彦
八月の二日八月をたゞる日ぶ　存阿
八月や起て坂帆つる夜も消　浦人
八月も結ばいてぬ草もなかるゝ　掉歌
葉月

常たゝ葉風そしる葉をくぶ　壺牛

蕎のこゝろ風まてに実の入葉月　文貫
たし夜女ゝ帷子をきき葉月ぶ　里芝女
八朔や旅ハ寝ちの物をも　曉臺
八さらや船動をの打法こゝ　春鴻
八朔の鼓をけの町の寺　禾木
八朔ゆをのよこゝろ数小百姓　鷲溪
八朔や掃除しるや法雀堂　芳居
唄比丘尼このもの門をゑにけり　春鴻
橋の長も時見るや田面の日　秀彦
秋彼岸

油ぶに出も来ぬ車や彼岸入　芝得

流れ藻の実をすらこそ彼岸だ　亀丈
包から推のこれ淡く彼岸の水　南井
放生會
松ゆるし月夜鶴も放生會　白雄
あらふて牛も疎る日も放生会　竹世
立ちらぬ鳥のさらしに放生会　一菓
放し鳥見て居る鶴の乳雀ぶ　茶静
そもそに鳴て去けり放し鳥　一蕙
初月
そのし月や此に君のふるき夢　嵐丈
初月の越向に見ん鳴くしら　宇橋
麻麻さし水のおとりや初月夜　東峩

二柴菓にかつしか淡や初月夜　芝得
さつ月やふ松のうゆる町さつも　草夫
三日月
三日月ハいつも何そのかこまかれ　士朗
さや翌のけしきんけり三日の月　素檗
黄昏を透し息なり三日の月　芽行
文角力さて淡比べ三日の月　天光
椰の葉に惜むなるらん三日の月　艸夫
待宵
まつ川宵に宮の暮るハ迷ひなり　保吉
待よひと同にもかけぬ古簾　奎彦
待宵や月さひ中の子の鍬　輪之

待宵のくゆらく 称そらけ　与人
まつ宵やまつよなるさ 兎罠　五縄

名月

名月や夜ハ人すまぬ峰の茶屋　蕪村
名月やきふ来る鶴に沙なし　野渡
名月や見てしらさ井ぢ美　烏章
明月にあらへる床の額の船　雪彦
名月やきハ山ろ金かな浦　さち雄

今日月

古寺のこのとそこゆるまふの月　白居
のさまとも いたぬ水簪ゆふの月　麥典
花をも波くてとくやうるの月　土朗

始気より有けきてゆふの月　月化
出迎たぬ山とてハなしなふの月　茶静

良夜雨

名月や何をとろふ蔵の面　土朗
名月の白ひくなり雨三稜　可都里
月に降ておのか気れとなる面ハ　乙二
見るかけや面の底ひ ゆふの月　素龍
濡に出人詩ゆう 泣ふ月の面　護物

良夜蝕

さまくす 何かなく恵の月の蝕　北冥
蝕たむやうとてぬ月の二様くるしき　孤山
蝕されて名月さらにあらなし　護物

十六夜

小いそ浪もさそふいさよふ月夜かな　杜蘭

こよひやゝいさよふ月に古びけり　眞ゝ

咲かけて探り出しけり花茗荷　紫明

十六夜や戸をさしてある尼寺に　南井

いさよひや手に落やすき芋の露　鳳曉

月見

月見るや葎のやどのなく〳〵虫　存義

牽かれて馬のうへなる月見かな　擢良

戸口まで汐さす宿の月見かな　繁里

七浦の風をはらふ月見かな　芳竹

名のはなれぬ夜を旅宿の月見かな　一峨

月

月しろや麦ちりかゝる蝶のくさ　還古

月よ今宵そのはてしなき青さかな　草友

月なくて照るや垣根のうへの花　路堂

人も曲らぬ水の月　文鼎

さすが月も齢の鶴の影もなし　少女きち

雨月

くもりし浪花の面の月　擢良

面影しや月もかはらぬ旅の宿　士朗

雨にゆるるれきく月のひかりかな　成美

としとしに無き人ありし面の月　亞溪

月の面られよ夜田刈るものの　輪之

秋月

[illegible]夜ハ[illegible]の月　雄渕
入おとんけてより秋の月　乙彦
生れたる日ハ忘られ秋の月　蘿文
おもむきの[illegible]秋の月　宜彦
深山[illegible]文て昔の秋の月　翫二

月秋

月の秋[illegible]　みち彦
田に[illegible]の居なしむ比よ月の秋　周里
兎角して[illegible]月の秋　一肖
花[illegible]の[illegible]月の秋　護物

駒牽

[illegible]大澤[illegible]　春鴻

駒[illegible]　淋山
駒曳や由来[illegible]　玉光
[illegible]曳の[illegible]　春葦
駒曳やむかひ近[illegible]　一肖

駒迎

[illegible]の里[illegible]　太無
駒迎花[illegible]　井左
皆すれを芽[illegible]　茶静

初汐

[illegible]汐や[illegible]　掉歌
初汐[illegible]一[illegible]　雉扇
[illegible]汐や芒一[illegible]　蟠

石頓やくり沙のくる螻の宿　艸夫
ちつ沙や鷗ゆかつるやうし鶴　一肖

秋日

ゆさの日は見るまふられて月夜だ　木僊
焼のりやりそる鮫の砂まふも　輪之
殺る杖の日和さらぬや稲荷子　五縄
あまの日は申へさし入るゝ事だ　茶静
焼の日をうへくなるれうし　梅溪

秋夜

苗まの畑となるや夜の焼　兌堂
杖の夜や舟やるゝふ鳥白し　卜蝸
人るもおりひこゆや東の焼　木芽

杖の夜ハ橋も一葉をさそふ灯り　草夫
ゆさの東やかくるゝ所し雲の穴　不玉

長夜

せき夜や子に主なりて鶴の寝る　袁丁
門多くしるさへなくて夜をせき　不尽
なりさ東に歳のくく青や附木突　ちりき
せきまと波の光くや　永の後　ナ
なりき夜をくりと吹出す嵐だ　蘇尺

夜寒

寝てきやす詠や東主の灯の白　杜蓼
夜やまこ望に光のかけりさす　巍道
夜主さの人にすする小山りな　可厚

石臼のよくうむ青や夜主の姫　梅壽
渋柿しの落る青のうきまえ見く　梅塢

肌寒

新人えて秋主き夜の柱の姫　闌更
秋主やと見せに落し夜の姫　春鴻
たゝ主起たし見を杭のかしらぬ　真簑
秋主や人も居ぬる硫黄小屋　樂只
屋風呂のたなし寒より秋主さ　梅壽

朝寒

新主の万年生まれ清雪の姫　武山
新主やあるの東て鳴水なし田　[illegible]女
朝主し日和もて来る糸の陸　掃石

秋寒

新主や水のおとりハ之姫柳　東峨
姫主し艸も清かぬ以清ふ里　掉歌
姫主や山まとまたふ雪の詞し　万九
く新日をかさぬる姫の主まぬ　石芝

露寒

秋主の新をふくむく清家かな　茶静
露主くなるや葡萄にすく新日　たし見
露主といふて尺上る榎の姫　清風
清ゆ主し常の体も海雲汁　太郎彦
烟海光の春ゑる新や露主こ　茶静

秋雲

うゝまぬとみえて美りし杖の雲　呉山

下

一筋の蜘ゝ笑ひ夜の雲　豊前　萬里
撞捨し鐘よりちるや秋の雲　梅笑
交鶴の夢をへはや秋の雲　麻直
秋の雲都の町を通りけり　宇橋

秋山

かさりなきゝ海に出して秋の山　騏道
のけしかりて雲そこなりて秋の山　菊也
秋の山豆の眼さしおろかん　乙二
何よの山をもなれるのこゝへ　野松
人あるのして何事ぞ秋の山　玉光

秋水

清もの眼に清くさせ秋の水　猨左
何事や大蓮さそふ何きの水　江戸　烏明
子あるかとの雪かれしも秋の水　樗堂
夕かなのかくれ雲かや何きの水　菊塢
掃のこ清子の扉も秋の水　一肖

野分

市人の夜を宿かれ其分かな　蕪村
さて鶴や其分夜ゆまて霄嘯す　春鴻
猪に怪根なら見し其分が　葛三
其分は雲も世事なぬ山しらへ　乙二
稲妻のかるかなしかや其分ふく　雨塘

秋夕

杵かりて寺て何する秋の夕　無説

奥うとのあうのうさよいかよの夕　鷲雪
角力の投出す足や秋のくれ　漫々
毎日や秋ハ夕の多うなる　茶静
鉢のあるに茶ほる金や秋のくれ　菊塢

擣衣

洛中に蒼穹もこえぬ小夜砧　千丈
秋かぶし山まで乾かぬ衣うつ　月居
衣うつ青や淡茅のむかひ日士　南皐
四ぶつや児の在にも笠の家　鱗々
きぬたうつ仕舞へた月の蓮だ　良談

紫山子

擣ふ日も持たて老好かしだ　鳥酔

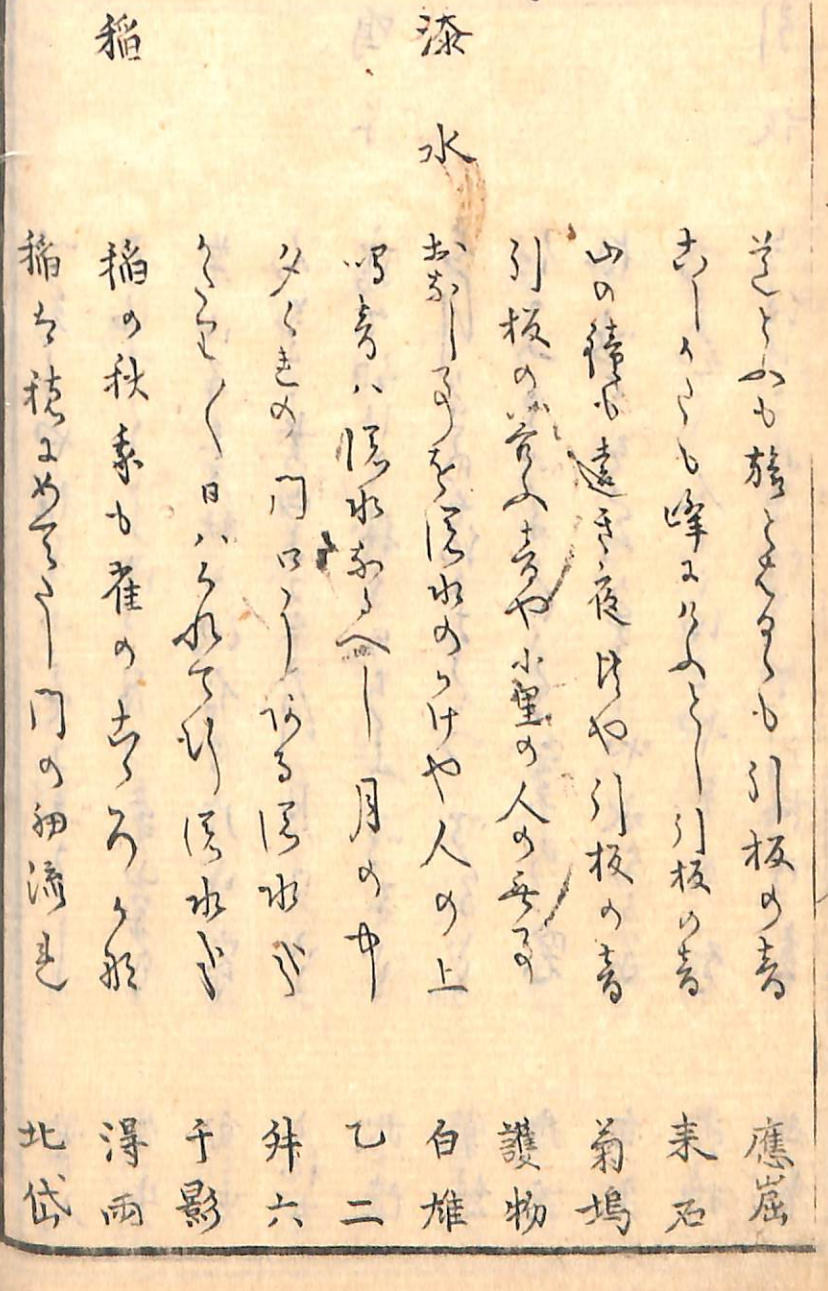
以ゆ見しや椎を小さてに立かし　雪人
尺ほかりにはゝ月の東山子だ　曾牛
紫山子立て杖ゝ似付て庁山家　旬光
人なさ紫山子にもたゝ月日だ　と祢女

鳴子

寝て起けた猪手のちよ鳴子だ　武陵
走りけさの霞にあらもつ鳴子だ　棠憩
何よふそ鳴子かけたる窓の窓　痩菊
風吹ゝそうかましや水なる子　旬光
鳴子見て人もうゆるや芦の面　杏樟

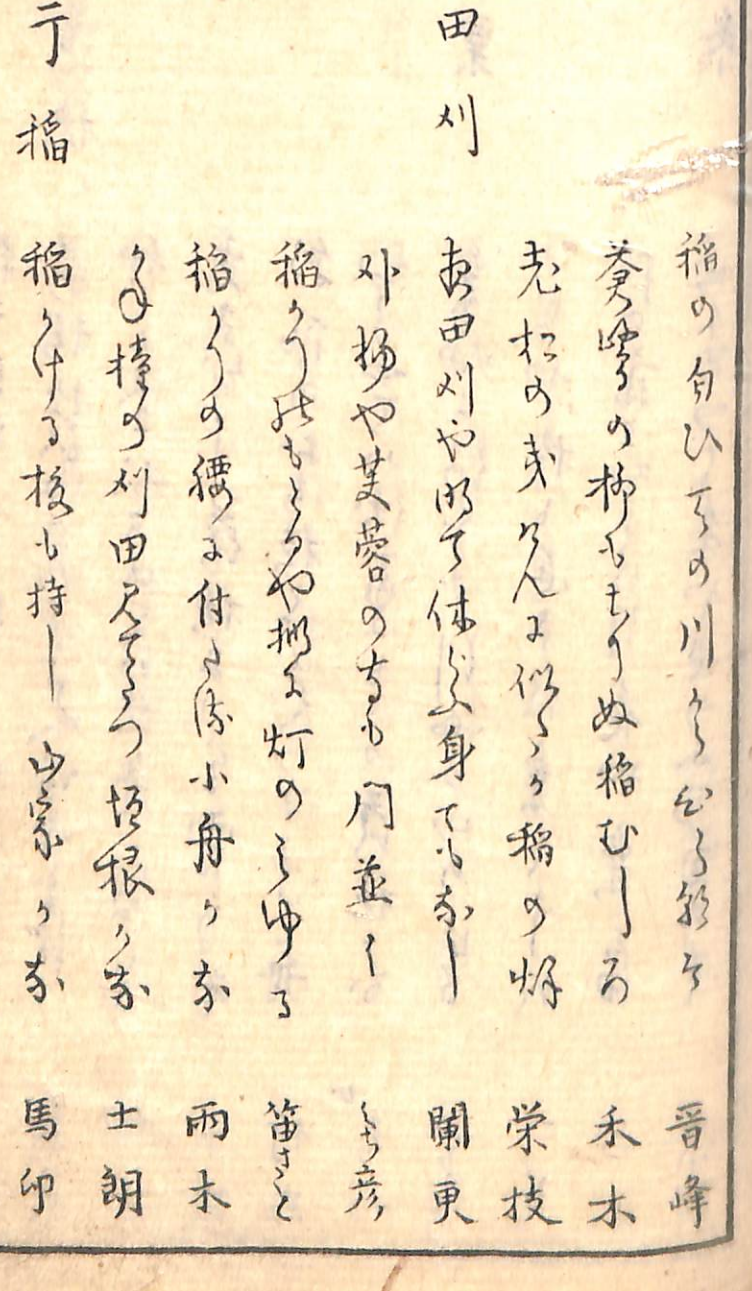
引板

山後のうれを後しや引板の青　白養



[illegible]も旅とまるも引板の音　應崗
おしかくも峰にはふとし引板の音　来石
山の鐘も遠き夜はや引板の音　菊塢
引板の音ふ音や小里の人の無つの　護物

漆水



おなしるのを漆水のかけや人の上　白雄
明音ハ漆水なる人し月の中　乙二
夕くきの門口にしかる漆水ぞ　弁六
[illegible]日ハかれて漆水ぞ　千影

稲

稲の秋素も雀の[illegible]　淂雨
稲を積にめてとし門の細流也　北岱

稲の白ひ[illegible]の川[illegible]　晋峰
蒼鷺の柳もまりぬ稲むしろ　禾木
老松の夷ひんに似たる稲の好　栄枝

田刈

夜田刈や明て体ぶふ身てもなし　蘭更
外柳や芙蓉の[illegible]も門並く　[illegible]彦
稲かりはもとるや柳に灯のうゆる　笛さと
稲かりの[illegible]に付る漆小舟かな　雨木
[illegible]の刈田[illegible]根かな　士朗

亍稲

稲かける板も持し山家かな　馬卯
山里や亍稲にかゝる月の色　袁丁

落穂

稲干ほや人は逃るゝ蜂の下ゑ　晋峰
落穂拾ひ日の沈るゝ人はゆゝしけり　蕪村
神　寝に枕ゆの落穂年　寂　保吉
先さむし落穂にかゝる霄の面　宗讃
鶏風のおち穂をくはしし舟　竹馬
ゑしゑてハ伏家にもゝる落穂かな　女　ゑつ

栗

栗畑に何をまゐ山の雪　冬彦
山里や橋も通さぬ栗を干ほ　一蕙
鶏の寝るかとの月夜や栗畠　呂水

黍

穂ゝせつく黍やきのふの面のまゝ　茶静
黍一穂あをりし背の枝折戸に　狐山
黍青や芒ちるみもすのはてを　暁河
本陸ゑるゝ山下や黍をよく　尊夫
家曳ゝ縄張ゑくし黍也　畝　雪幸
尻屋の坂をくつ芋の葉かけ　巣兆

芋

碁笥なる芋持ては艸の庵　乙二
庵売の美にもさしし子芋かな　冥々
芋かしら白うるゝより昃夏也　輪之

零餘子

雀類もこれらも来るゝむかしもる　冬彦
栗の戸によれてむかしは此ゆゝ　摶堂

柿

[illegible]買に出る片番のむかしにかゝる　雪橙
柿うれし價も里の[illegible]か角　保吉
木ぢりの柿の赤さよ尼か菴　敬義
筆柿の[illegible]の付たる寺子かな　春葦
[illegible]柿の[illegible]うこかぬ曇[illegible]　如毛
柿[illegible]人里をくしたけ[illegible]　百丈

熟柿

作ちの秋ハ熟柿にかゝる　夢南
[illegible]來し熟柿の思ひかな　梭ヶ呂
[illegible]の[illegible]の[illegible]　乙因
[illegible]ハ[illegible]の[illegible]　完来

蔦紅葉

[illegible]の[illegible]　茶静
戸の[illegible]の[illegible]　玉光
[illegible]　春雄
いつ[illegible]　春鴻
[illegible]汁の実[illegible]　蘿文
[illegible]　奥[illegible]
初紅葉

初もみち菓粥の後の[illegible]　袁丁
[illegible]　蕉雨
古[illegible]　女[illegible]
初もみちけしの二葉[illegible]　亀丈

芙蓉

旗の子のまめ〳〵しさよ初日紫
立いて芙蓉の凋むりく何人 足
きらくなる芙蓉のむの夕かれ
夏の俗の手ぶりにはやちる芙蓉
乙ゑもいかれぬ夕や芙蓉さく
芙蓉さし秋さくむとしてれば

木犀

木犀のむに敵なき 白ひかれ
白ふものこれ木犀にとらまし 作
夕の羽かせ木犀しきし夕のきき

穂芦

蕎麦畑の桂に白き桂芦ぶ

竹里
白雄
年六
季彦
嵐丈
應〻
彌六
一慥
竹馬
太無

芦の桂にかゝえ出たる月夜ぶ
むら芦や桂川面の桂にかゝ陣
小酒屋の日かけに来ぬ何しの菊
谷くや桂芦をのむる鶴の雲

刈萱

芝路の面刈萱はくそのこと
刈萱の片岡萱はむ夕うの那
かゝりやのこちとるやふたれら
刈萱の下這ふ面のふかりぶ
刈萱や山の日ぶし此むら曇

雞頭

鶏頭やあふまとはいろあそ

松兄
扇和
鹿太
岸根
暁臺
士朗
袁丁
杜蓼
炉扇
青蘿

鶏頭に来ても只居労雀の形　雪彦
夕かけにそやまる軒や葉の心とう　具翠
鶏頭や綿搗洗ふ手の中　朱砂
あらさまぬ紫くり畑や鶏頭茶　炉扇

紫苑

いかゞしく風折しける紫苑かな　雪雄
内裏て紅のかたはらく志ほふかな　芙九
花に葉に夕日そなる淋し紫苑来　秋菜
釣の日か姉しくなまて紫苑さく　里丸
酒手の底干ほ日折て紫苑咲　淡水

花野

席枝にむかの風ふくりか形　春鴻

牡丹茶の牛より下里淋茶ゆゑ　乙因
世をされにいふや茶の薄莖　竹吾
うちはけに風の袖ふく花莖ゆゑ　壺羊
釣夜さへ来しむかの杉ふと来　月鴻

秋野

あきのかや心へくかの霧何の霧　保吉
秋のかや牛追ってる風かな　可都里
蝦のかをなる人霧にぬきぬ手か　秀哉
杉のかやちをうちたほ夕日か声　茶静

蕎麥花

宿とりに出折や蕎麦の花形にて　椿堂
夜をかしの狗来ゑしそはの茶　千拝

みそこ孫とて起ふ山家やそはの茶　孫彦
大家は畑一枝や蓼麦の茶　伯芝
そもの茶木の有以山もまた沈し　東峩

蓼花

大蓼の姿を伸そ花赤し　藤壽
傘さしてゆきとさく蓼や蓼の花　右雄
盗まれて茶の[illegible]や蓼の花　孤山
むしゐ[illegible]ゆきの茶　井方波も

鳥瓜

三日月のけそ[illegible]入や鳥瓜　廣陵
ちとまてし[illegible]葉の[illegible]や鳥瓜　天民
[illegible]鳥瓜　利根古

木綿摘

佛[illegible]初秋[illegible]の木綿　乙二
世の[illegible]苦[illegible]やむ老[illegible]木綿[illegible]　輕舟
塊の角さへ[illegible]木綿摘　一肖
[illegible]の老[illegible]畠　江戸 其翠

藥堀

茶[illegible]人[illegible]生人とす　大江丸
粮もおくしは[illegible]やくすり堀　曉河

木賊刈

山人や老のちりしは木賊かる　壽翁
はしき木は[illegible]逃しけ木賊刈　啓山
[illegible]の[illegible]刈　一桑

鹿

火のかけ[illegible]やちよか山の鹿　来鉅

鹿笛

初雁

うきてのうちもしたうの春　翠川
たゝくにまやあ明の鹿の聲　淇石
かけの事北戸の口こえて麻の春　採光
蝦の毛や面のたしより麻の春　茶静
麻笛の功志ゝゝ氣れなに　青々
麻笛や弓張月の入るよ梨　竹児
志り笛の聲ゝ氣まゝとゝなと　寛里
麻笛の吹ゝれ谷の野　雲舎
たゝ雁や日しまなしきもしま　士朗
刈ぬ麻も実ゝなる雁ゝ　克一

雁

鴨

雁の来て古むし菅の小池ぞ　茶静
来そむ雁餅蔵の竈何なる　草夫
初雁ハ聲なと数のなかりけ季　ゞ
沙先の嵐ちもし雁の春　巴蛍
雁なくや身ハ清まれぬ小風吾妻　真恒
雁の春旅の庭光ゝなにかゝ　太郎彦
笛ゝや雨ほちしゝ雁のなく　成章
雁なくや梅の深まて夜の沙　對良
鴨ゝりや多きハ色の風情なき　月居
鴨なとの多ハられとも夕鳥　福采

鶉

夕雲のたりしく比や時のたり　斗囿
二度とも時しつ草に明るなり　南井
時突てなくさむ人も老ぬ事　茶静
鶉なくなや稈積にすむ面　掉歌
夕月や草むらいてなく鶉　江水
貞徳の窓の数なき時うつる　蕉雨
日ハ草の先にまりて時鶉　喜山
時出してや夜ぬうつるを意なし　袁丁
啄木鳥
来つきの月に鶉く来るかな　樗堂
来つきのあるにたつる夕日かな　乙二

稲雀

来つきのたてハそ来にやらるけて　月化
来啄鳥に蟻のこなるる　枝か好　茶静
きつきのつき出しとる面白ぐ　李尺
焼なしと翌日ハ志るしめ稲すゝめ　士朗
稲かゝしてハ夜ハ雀　孤山
似しうろ人にすゝなし稲雀　太節
よき人によき文解ひぬ稲雀　杉露
稲になく雀よ春の日の出ぬ　太郎彦
鶉に稲何とかき鶉の志ましぬ　闌更
鶉なしや沙ゑ田イ入枝の林　完来

賜も雁及月夜にあるや須ゆし或
水かけのかれもよふや風の鶴
山越や雪をしこまる百舌鳥の春
乙鳥帰
萩の枝に訪ひて帰る乙鳥かな
枯もやき葎にはなれ乙鳥
彦星のつのれ見しよりゆく漢
渡鳥
蜀黍も羊積なしくつくる鳥
横雲に面をたつれて賜ひて流
つくる雨の重もこえ行なる
鳥衛や小鳥のこゝ流風のはま

ノ且
可九
女 ちりき
泉兆
草均
花女 七越
みち彦
栄枝
浩凌
明良

こゝ流ともこえ行ひしか楠々の鳥
鶺鴒
鶺鴒の笠木を走る朝来かな
せきもしの来てハ歩まする様娘ぞ
鶺鴒のこゝ居利とふりもなし
鶺鴒ハ昼の月とるそふこの朝
きされ山の峠にもへらはさしも石
蛇入穴
手くさ頃ゆや見し蛇の穴さりし
穴に入蛇や小面の心とけ 紀
穴さりき蛇にそくへるうらすぞ
新米
手の心に笑ふりめしてしし米

柳美
袁丁
宇橋
三化
直也
一角
鷺汀
喜篁
一[illegible]
[illegible]屋

新酒

新米や楚おとす香も朝のも秋　寥松
き見て詩の揚うこけおとし酒　灞陵
のおほうてきて出りけり　春鴻
里並や頃ゆふ寺のこゝし酒　恒丸
染てちる枯とハ知れとそ年酒　光浪
境飯の様ゝふるやそ年酒　玉珂

九月

東ふむ枝の柳つゝも九月ぞ　万和
菓月や走る雲ハ夜のこゝ　梅一
松ゝき山の九月と雲にけり　其嵐

重陽

積すゝきに日の紅ゝそふ九月ぞ　茶静
蓬みも知りてきし頃九月かな　士朗
誠の子のそれにも入よ久ふの菊　みち彦
馬の尾もそれ行九月九日ぞ　乙二

菊酒

詩ゆゝも知とり漏けり菊の酒　こゝ彦
きくの酒碧ゝてきふ香とかり　闌更

後雛

柿の葉て子供ハ清ゝ是後の雛　詠帰
出ぞ路ハ古りしかし後のひ雛　痩菊
かし清ん雛や芙蓉のさかりを祝　明石
[illegible]

十日菊

[illegible]菓の十日かな　李翠

酒盞の明る月こしや十日菓　玉蓬
後ろ居そ手折も初ぬ十日菊　浮阿
かなへし十日となりぬまきの菊　痩菊

舟市

舟市を生きて経るめ五郎太夫　[illegible]彦
家にこそ月花斗る舟ばらを　孤山
松鉢を知らひ無めなり市の舟　さち雄
山伏も立ちり欲を舟の市　士升
傳しかと宝の市やこめらせ　古玄

十三夜

主人の月も経見つ十三夜　士朗
裏関の[illegible]早　十三夜　上峯

月かしや家かしやきむ十三夜　太節
宮ふ[illegible]面の葦の十三夜　夢南
こゝろ家の月見揮折や十三夜　護物

后月

こゝやさしやこひなしや後の月　葛三
芳むくらさゝ入たやのちれ月　可都里
居酒のむすみもなきぬ後の月　菊所
後の月北窓な家の楚明て　茶静
鯖鯽の様もうけもてのちれ月　谿翁

名残月

月志しし面のおし見る名残りな　摶良
月の名残雲なりしに似きぬ　太無

御遷宮

[illegible]月の余波かな　土朗
[illegible]の旭[illegible]　白雄
[illegible]　淡水

野宮別

[illegible]　詠帰
[illegible]　護物

秋雨

[illegible]　卧史
[illegible]　流芝
山川ハ[illegible]　雉扇
[illegible]　痩菊
大沙の川[illegible]　玄鮭

露時雨

[illegible]　闌更
[illegible]　浮雨
[illegible]　露竹
山篠の[illegible]　子侍

秋時雨

[illegible]　玉光
[illegible]　乙因
[illegible]　士朗
[illegible]　九朴
[illegible]　護物

露霜

[illegible]　騏道

霧霜や妻迎へしと妖のくは　茶静
霧霜や杓杞の垣根の蚯蚓穴　来同
清ゆ霜や篠にこゑるる鯱水　一肖

秋霜

横さ波に烁の霜ふむ小蟹ゆ角　春鴻
うき艸の骨をもとゞり秋の霜　嵐丈
雁鴨ときの咎合ふくし枝の霜　守三
草蝕の糸ともいさはあきの霜　女くに

紅葉

鯛に名の宿そふ枝ものよ浦紅葉　不騫
紅葉見の似堪町を通りけり　三巴
もみちする山に宿りれ青麻星　かはくら

生鯉の大きさを以へもみち信　天画
紅葉から日の照とくく山家ぶ　撫月

柿紅葉

知らぬ人もふりてとゝゆる柿紅葉　雲彦
寄る迷るさへうさは柿もこちち　葛三
田にはこれ沈ともこゑは柿紅葉　東峩
笑は合ふ隣もちらり柿もこちち　虚白

草紅葉

稲葉の見すかは水や草紅葉　逸英
小角からくに枯そむかくさ紅葉　女千信
本兎の頭巾もそめよ草もみち　さち雄
山深く夜とりこそ草もこち　葛三

菊

菓さくや峠まで来てゝ餅　梅彦
ひかり灯にうちうち新し菊の香　梅樓尼
菊の色や鞠場へ通ふ葉の酒　亀鱗
いつの春に移らせれしや其後の菊　珠山
是なとの菊に釣屋の釈父ぞ　明良

梅嫌

冬籠る道といふの紀梅もとさ　廣陵
身ひとりの杖にたゝらやうめ嫌　雪万
淄桶の水かこれまでの梅もとき　蔦也
世る並に梅てまれし　梅嫌　文貫

末枯

うら枯や末ぶちとる浦の町　みち彦

抽

末かれや畔にやふれし　砂俵　茶静
末枯や向もそろはぬ二軒家　旬光
うら枯や田具流るゝ　寄の絲　茉山
末のきや頬白なと鋼ふ小酒店　一月
頃おしの抽も白ひかりけれの旬　万壽友
ひかりけれて一ツまさし　抽の黄さ　菊也
月かけのまに志ひ比そ　抽の白ひ　布席
桶とちの殺かけ乃や赤とむ　抽　魚とは
其ものも一さひさしぬ　抽の白ひ　みち彦

木實

呉山の徐ひしたれて　木實ぞ　鳥酔

行雲や鶏あるむく枝の実　普記
木瓜の実のこぼるる月夜くらぶ　蘿雲
味くらいもとまふおそるる木実ゝ　袁丁
晴ても庚申まいりの木実ちる　南井
梨子
梨をむくや雲の月の葉あるに　東陽
もゝ柔にかゝる月待栗の無形ぶ　可丸
夜半かゝの青にハちきし新の栗　草圃
栗をかふ山詞なるや時なふ　弓雄
起後て山くらふや栗をしひ　菅六
夜栗やかゝれ田の以さゝ　阿兮

川ゑにあくかけさせつおとし栗　アえ女
小さくなるまくけや椎の宿　百嬰
椎の実にふり始され雲鳴故ぶ　吐雲
鶏の背もうむけて引ぬ椎の宮　五縄
椎の実や門口こえく爪上ゝ　茶静
夜拵や茶に外猿の詞なるゝ　ちりき
茱萸
茱萸ハしや小鳥も志らぬ実を猿ふ　白雄
くるの恵を背へて山の日和ぶ　炒扇
ひら海に茱萸の恵をしむ春風ぶ　輪之
くるの恵や炊らふ牛に横日さす　雪彦

通艸實　杖伐にこの居来ぬまあけむの実　晋峰
通草忘む日和つゝきや山の町　凡二

菌　ゆるましく頃もおかしや菌のこと　鳥明
そのいとぬ人の切先を菌　特　得雨
様青や菌和とう法古打　茂　孤山
協の巣に日かけをしむや菌　特　鷺洲
小松ふむ居の夕さよきのこ時　亀庭

松露　松露こるや新に居ける爺の家　有則
陸青のうへ入りし松露かき　守三
六代のうきゆの頃の松露代　樂只

落水　二三尺稲の初きやおとし水　月溪
ひの門も免らりて姉し落し水　蜂友
系堂の稲世にゆるや落し水　孤山
落し水夜を塩ほゆるにひとる　黙翁

崩築　崩れたる築にとまる　経木ど　杉窓
とかぎ矢の流まで来ることくつれ築　李青
山骨の雲ちゝえしを山崩れ築　宇橋
きるゆるも桜をほかにぬくつれ築　禾木

細代打　兼ほくる場をゆうそふ地ゆしろ打　成美
系ゝ罵を捨りてハこう細代かな　掉歌

行秋

何し誤おり相の年貢をかたるけれ　草夫
行秋の塵ともなるぬこてふかな　省吾
ふしのうらや芦の末葉に秋を行　与人
主ゝ艸の下葉や秋も二三日　仙骨
ゆく燈を粉ゝ出し魚る菜汁かな　加賀雪人
行秋やうれる畑に家のこゝ川　右月

暮秋

馬下アそ見る士かけれも桔の薯　几童
岸ゝ水のいつしをゆく燈燈の薯　春鴻
おりひきおもつしもなして燈の薯　壺牟
鶴のなしかたよし秋ハ薯るゞ　咲菊

九月盡

己亥の尾に尾る秋と薯に乃里・江戸　万里
縄も居ぬ咩の家や九月尽　みち彦
京へ出る運のこえて九月尽　茶静
山乃の袖ふきとちよ九月尽　列山
童猿の日孔をつれかり九月尽　菊塢
清る草をまくれハ出し九月尽　玉光

俳諧新五百題巻之四

田喜蓁護物輯

○冬之部

初冬

[illegible]二ツ子に箸とも[illegible]　暁臺

初冬や城下の町の[illegible]　みち彦

[illegible]　可盈

何となく冬の立たる菜木[illegible]　仙骨

[illegible]ハ不[illegible]の人通り　太郎彦

十月

十月ハ兎と猿の白南[illegible]　雞路

十月の[illegible]　百尓

十月や芒の中の水のおと　素撲
十月や朝日のうち淡麻の角　茶静
十月や猪になれたる波これ猫　玉光

神無月

死るものこれくさむし神無月　重厚
小雀は鶴も何ゆううちな月　巣兆
日の何たる古鉄うせや神無月　朶年
世系なしや丈実に淡麻の神無月　名恒
蜂の灯に松かせ紙し神無月　東一

神留主

灯もとして麻上戸さけし神のろす　雪彦
草も黄になりぬ葉なの神の留主　谿翁

酒の香は余所にしさよ神の留主　女を波も
市神も淡留主になるう朝の留　芳居
神の留主平家よりまさぬ家物や　護物

神迎

一月の蔵葉も掃て神むかへ　蝶夢
油所なく山来む棒て神迎　樂水
神迎牛の鬱をかたまなり　一巣
山里は星ともの光神迎　桟車

蛭子講

いつの法者祇ハ死なり蛭子講　夢南
女房のおろうやまなもえしけす講　孤山
蛭子講うそはしし臭ハなかりしけり　石芝

弁市にくうけて息や堀子講　春来

玄猪

米二升　小荻かせの玄猪かな　蓼太

口上のこれからまきぬのこかな　吐月

忘れ芽をふくや玄猪の門の草　万壽友

たくこ屋も白さ笑出す玄猪だ　詠帰

梅もさく稼多か玄猪の日和かな　宇橋

達磨忌

達ヂ見ぬ詫ぬきまし皆かな　蜂友

達ヂ見や南天の入る汁の中　乙二

達ヂ見や人の見付ぬ五日月　午心

達ヂ見ハ山吹きましむ一つ　三兎

達ヂ見やとふてもきたき砂の白　茶静

大師講

天の尾社蝿も往ぬ兎まち大師講　喜齋

杉子とる辞やなく弁大師講　宇橋

殆ましうあすむいふや大師講　亀丈

皿鉢も呼る笹具や大師講　玉蓮

祢宜殿を祈り雪まや大師講　みち彦

十夜

八合粥も繋おろしたる十夜だ　月化

提ゑ笹白し十夜の講うしら　蕉雨

忘のころ此宮うて寝る十夜だ　露竺

きハしおきし白や十夜のおこし黄　女ちくさ

御命講

菓子くらの庭くりおしや命式寺　雨塘

酒樽の車引けり御命講　茶静

清香講や餅よむかしき花ハ蓮　一肖

皆戸町や命式の花も一さかり　護物

御取越

さらきりと見えも椿も取越　柳几

松たしの日暮しさよ取越し　巣兆

六八尾の様秋らしや取越　完来

取ま句しふすまるかとや米二俵　成美

隣は八千の生れかゝりや取越　文貫

芭蕉忌

旅寝よしとされの松よまき哉翁　樗良

今は昔とはけふの事よし十二日　無説

命式見しはまだ来ぬ翁の日　みち彦

翁見えて菊の其の女の唄ひ出す　桂裡

月のこの法師あさすや冬扇　護物

形見とや御小春の門や牛のまゝ　湖山

風より鮟の言われ中まゝ哉　百嬰

奥より水もよく小春のまゝ　南井

山賤の老てのよる小春哉　梅渓

松たよ鳥も小春を唄ひけれ　文晁

小六月

生海苗千尺浦人出るや小六月　玉屑

朝夕日の一輪すゝし　小六月　可友
桃原のとくるゝ　小六月　北冥
中十日月もぬくとし　小六月　如松
沖波の夜氣こゝろや　小六月　禾木

冬日

冬の日北さすや鰮とる菴の牆　樗堂
田鶴なくや冬の朝日の水ぎ里　足彦
鰺にすむ里のなりぬや冬日氣　東峨
芝蕉の乾けるにしれる冬日ぞ　呂律

冬夜

冬の夜や蔵見ていまれかけ法師　士朗
鳥羽玉の妹ゝ面白き冬夜ぞ　[illegible]

冬の夜や針く去なこそおそろしき　雪雄
ふゆのあや道のそしに洗ひつく　木海
冬のあや炉架にうつる噂の街　護物

冬月

冬浪のさゝひ出しけり冬の月　琴洲
志ゝ付て草に入りふゆの月　三喬
橋ハ雪しし免くなる冬の月　李冬
月霄くみふ押出しく冬の里　貞風
入陰にきしおそゝきて冬の月　萬籟

初時雨

うきとて冬ハ来にけりうつ時雨　士朗
立野ハ水くもなりし初しくれ　澧水

石藤にぬるゝきの光なれや初時雨　茶静
いそ山の砂にこゝろを初しくれ　玉光
きのおしてしてふくしや初時雨　太節

時雨

しくしやしやしもちる菊の花　遅春
さむしぎの青はさくりて時雨ぞ　葵文
ほくしの鐘撞てあるしくれぞ　楮来
しくしやしやしてむさく煙草種　蒲雪
はるにも遅くしやしや積まくし　浪花　鳥明

夜時雨

時雨ゝる夜や稲妻のまゝの上　土朗
井はしら和さんに小夜しくれ　可都里

初ふくはに菩薩つゝみに小夜しくれ　長翁
しくしや月夜のさゝめき堀の松　士明
夜半の房山寺の時雨をさはきまる　護物

松風時雨

松しきの夜明てもふましくれぞ　乙二
松風のやまるしやしくしくは雨　芳居
庫りはしくしくしくしくしくし窓の松　花女　豊岡
この虫に初霜りし陳藤の那　鉄船
さしの霜や枯ゝる蘇の心と描　扇暑
初霜にぬくまるまつやさく薊　孤山
たつ雲やこなしにそめぬ山の柴　椿年

下

霜

香門の照にかしつゝ霜の松　千丈
菓ならけや雀足にくしらし　斧杖
かゝれ家も人目ハかれは無の霜　壺羊
それもまて日のさしに霜の洲芽ぶ　黒水
寝る人も有ともこゝえに笘の霜　こえ女

霜夜

こはしさの夜も人来ぬ霜夜ぶ　青阿
満月のちはさくこゆる霜夜ぶ　衛足
楞嚴のたゝれる夜く霜の笠　悦二
蝙蝠の斧もかゝる霜ぶとも　梅塢
をくまやくるゝの星のこむ東北　護物

初雪

初雪の鶏まで労家もなし　泰昌
ちらし雪やこつさを降てしらなき　椿堂
ちつ雪や雑事手に出人家をつく　ノ且
初雪や鶏こつけし　五六日　音峰
ちつ雪のふんまうけや軒の稲　茶静

冬雨

夜蝉ハ老のものの野ぶ冬の面　呉光
ふる日とハふるぬものしふゆの面　永技
かしきのもて来しものか冬の面　旬光
あなけさや焼ぬ頃家も面の冬　石雞

木枯

鶏の春月の木枯に吹くれて　雪三

本かしや川越てゐり麗雲紛紛　棹歌
風や友くつれしく鳩のくる　紅邨
木枯や鹿にものやる町たつき　南井
こがしや明ゆく月をよふ楓　栄子

冬さまを

冬さまや足にこゝゆる貝の売　闌更
冬さまやいかきまきまの奥　祇徳
あさまやはしてくれる舳　蘿雲
冬さまやかくりとるき蟹の穴　ひさ女

冬枯

冬枯や釈子屋くるたゝぬ鶯　春鴻
あらまや蟹のくれにるの魚　存阿

冬かれにひとりてゐ嬉しいを清水　登彦
冬かれや茉きはたゝり家る男　二川
焼帛も冬かれ畑の一ぐしき　護物
折くハ梅の下たくきさかれ　袁丁
勢かりたるよけるきさや麦の中　巣也
升焼くに主くしたり山の月　旧友
主きは日社馬に清けるる草鞋ぶ　真彦
久ハ白のかる義さしぬかる主ぶ　旬光
月のさす土橋の穴や雲きゆて　壺山
こゝ湧て牛盗人のゆく傍かな　訓山

寒

冴

胼

冴る夜や美もと来にけまくひ　一肖
うつ宿の青こそ冴を間の町　護物
順礼や仁王の前に猿をおく　保吉
猿のまく獄おろしかりあや　東
猿かくれまぬく針のこをきけり　嵐吹
猿のまやそもそしたまき敷れる　夢南
胼やさそ局をまさる鈎手燭　護物
けかくるや霄の草鞋の落し炎了　春鴻
輝をてるて以ると演出り物　鷗里
おかるかや身をのこしつる神ハ何　某山

爐開

炉開や市にまさる法松の坊　重厚
炉を明て友をまとめしに人ぞ　蝶夢
爐ひらきや雲にかけるる釈の縁　五明
窓にとる法山尺に出るに炉開く日　如翠
炉開や座もそれより梅の敷　石芝

口切

口切や友をまつ葉の変さく　川上氏不白
口切や水のけふるまゝふるを　吐月
けるかれの口切まりそ菓稽小来　蒼意
口切や雲の角にも一て糸柴　滄水

巨燵

其明り糸明けり金巨燵　柳几

佛檀の明しを兼るなれば
鈴の寺の老く更ゆく巨燵だ
折ふしや巨燵をのけて焚き古柴
狐山
狐をしこせ中ゆりあるまえ
木父
孫未千代日ハ有なから冬構
舞魚
蔵積むく蔵のしたも冬構
芦九
あらまく山としまへたりしきかれ
車両
打うさよ打葉よ菴のふゆ構
菊塢
秋にもなしぬ木魚や冬こもり
百池
打かせハ二ところ冬こもり
伊勢 鷺洲

冬籠

冬籠けんのかつかれたる
其成
七くさのきらぬ小屋や冬籠
袁下
秋けしよ貝ハ屋にて孫く冬籠
瘦菊
埋火
埋火や木に紅名かくもと
[illegible]彦
うつこ火や庫秋されたる庄氏の場
米友
埋まくつれこそ火とし云
茶静
うつこ火や年寄来れて旅も峠
大郎彦
火桶
有ふれたものなかりする火桶だ
儲史
投せりにきかもそうなる火桶だ
伊勢 虚舟
東ゆくこと側にはしきと桶だ
音峰

一ちなみに桶を出す家越ぞ　玉珂
おもし給ふ又ぬぞ桶の接ぎ　水直

火鉢

いろくの袖口ゆるぞ鉢かな　みち彦
何かも知らきか嬉し大ぞ鉢　碩布
白雲に舟まれ宿の雲鉢ぞ　茶蓐

囲炉裏

山伏の鼻つら焙る囲炉裏ぞ　詠帰
おしけるや囲炉裏まはるまで松葉　松杜
夜咄の古いめきしいろまぞ　芳居
鞍いけて家うち出れば山鉢ぞ　護物

榾

榾ひらむ千年株の榾本ぞ　昌作
榾久はたれる年のうれるく　椿海
壁越に寄るを志かるや榾のもと　氷佳
小さゆかし焚ふてもなし雪の榾　新賀
榾ふくやふる風搖る白もさは　竹山

炭竈

炭竈ややく人えて榾主し　青蘿
すら竈や罪くしくもおもまれく　みち彦
炭の波をさして飛ん夜の榾　雪雄
炭の波のそふりや雁もかよふ石　観海
まら竈やいつれ深世ぞ烧　玉珂

炭

打付て炭打鳥のはしらぐ　椿堂

[illegible]の夜そせんてハ[illegible]日も　魚眼
雨をきく夜のもやうとしらし[illegible]　[illegible]
夜のうけやうとく[illegible]すゝのあと　石芝
[illegible]　青金[illegible]　杉長
さゝしきや煙柴の波の身に[illegible]　[illegible]
比丘ちや　涌柴の[illegible]　草夫
[illegible]　[illegible]　護物
留[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　定雅
[illegible]　[illegible]　女[illegible]

湯婆

帋衣

帋衣[illegible]　玉河
[illegible]　護物

蒲團

蒲[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　百郷
[illegible]　[illegible]　東一
[illegible]　[illegible]　菊雄
黄[illegible]　[illegible]　護物

介衣

[illegible]　[illegible]　午心
[illegible]　[illegible]　さち雄
[illegible]　[illegible]　一月

頭巾

[illegible]ふき波一夜にしきの夏ぶとろ　月居
ましたるや頭巾なからのいと波も　丈左
孝經をのきて出きし頭巾が　ノ且
人ぶろ同し頭巾の形もなし　夢南
[illegible]の[illegible]を子に笑ハれ頭巾が　瘦菊
を身の雀ハまゑの頭巾見る　孤山

足袋

足袋をはて寐る夜ぬるさ夏ゑんが　蕪村
京の蛇をたゞれてこゝろや袂の足袋　五明
松葉さくかけに足袋さす山家かな　士朗
抹上の背金の足袋や晝るゝ　夢南

納豆

古姫法や[illegible]ハ[illegible]　寥松
納豆汁ハ嵐のいほりかな　月峯
納豆や五三の桐北小京[illegible]　葛三
[illegible]や何もさぬ身の納豆汁　百恭
[illegible]の[illegible]さへ身は納豆汁　溪鶯
山伏の袖のふるさよ[illegible]汁　女夜も

山茶花

山茶花や一枝かれていつの波ゝ　こち彦
山茶花や[illegible]日のさすかこれ先　旭路
山茶花や山家ハ風の[illegible]　少年李宙
[illegible]の盞ハ[illegible]月夜が　一歩

山雲を日に辞ふさるよ本稿くる　一蕙

枇杷花

くさに祢ぐ事にハ見ゆるのを相　佛仙

かきよりもて木ゐるすえるや枇杷の花　こら彦

枇杷のむさくやらぬうちちらぬうち　咲菊

咲ち峰さけくふるも見るのむ　蘭々

正月か藪から見えて枇杷のむ　國村

茶花

菓の茶の十株も並ぶ日南かな　若翁

むとても其けハ持こぬ菓朱かな　こら彦

菓の茶の詩ぞもなきさうなさ　東湖

菓の茶や名をかけし山の町　車両

帰花

菓のむに孫のくつ詩く自刺ぞ　護物

引よきて折らてきけりかへるさな　瓦全

干稲のぬくとりけり頃とされ　耳谷

井むしく青のこ実やかへる茶　東峨

殆しき年のまくりや帰茶　八朗

かへるむ所とうそうれ唯の家　花女江川

冬柳

柳かれて人徑すゝ法林ぞ　巣兆

風の雨に日ハ入りけり是柳　布雪

かきし冬をうけても安き柳ぞ　鳥旭

何そうそ引かけて所りかれ柳　三和

拈てうら伸しとおりふ柳ゟ殆　葎居

冬牡丹

降ゆゑ朝夕かれや冬牡丹　一扇

十月のむよハをしきたらんぞ　双湖

雪よけや鶴ふ宿の冬牡丹　石芝

冬牡丹人ハちゆさきんかな　葉山

八ツ手花

ものゝ足らぬ時ゆゑ人やちるハツ手　東峩

日くらやハツ手くたるゝ水仕もと　禾木

盛らぬうちにこれ新ハツ手かな　茶静

八ツ手咲やおくまるものまゝ屋　一肖

水仙花

水僊のふさや雲をなきものに　花川

水仙のちからゆゑ花さらくろ　翠喬

水仙に人も鹿よりや小柴さす　鶴光

水仙や人の昔をうら海尼　豊女

水仙の花にまけるる焚ものゝ　石雞

寒菊

嗅ぬまて寒菊折に這入ゆゑ　希言

寒さくや霞のめなる鳥もきゐ　五縄

寒菊の日かけまゝもぬ白ひぞ　さち雄

寒菊や朝かゝ鶏の日を偷む　雉啄

寒菊や鰯のよりし海清の海る　子明

石落花

世落葉人にくきハ清そのされ　士朗

す蒲切の日むきかくるか石蘇の也　掉歌
俗立の法森をいしや法師のさま　波かな
石蘇明や積にむらも苦の也とつ　美しき
冬芒　翌ろしん冬さへなしや冬芒　杜英
冬夜の日のしをこうに芒かな　栄枝
ものいはぬ人にのるかき冬すゝき　子明
枯芒　枯芒角進ひ出す小だかな　みとし
くきましと替ふ芒もかまかれ　禾木
そもくの月より月のかれ薄　奴湖
枯尾花　かき尾花をれてかけさす蓮ぶし　李冬

をれもきてふかれ果るや枯尾花　蓬柄
枯しまつれて尾花こゝく蕾　東一
山路子見る髪の尾花枯にけり　耕雪
かれ尾花日の入夜の法をまり勢　呂律
枯萩　かれくや波より出くき萩のあり　暁臺
夜の野萩なる春を枯しけり　長翠
萩の枝の袖にしたゝ枯にけり　阜池
枯るまで風もつ萩のゆふ風ぶし　禾木
枯菊　枯菊や菊て垣しさらひ井戸　和夕
花なから火ゝ奥く菊の枯枝ぶし　其翠

菊売も売てこのあしし小縄ちまた　女子伝
年々皆の教うハ見ぬに菊かれる　雄嶺
かれきくやこれの子供もちゆり疾　護物
夜ちゆてもつ萩の枯葉かな　駅道
枯葛や何をこゝれてよふましら　みち彦
萩すきいとこの世ゝる枯うゝり　乙二
庫かれ菓かも鹿の屋ゝゆる　普記
冬草
宮もよきかけかも冬の小菓原　守一
鳥の眠もかれぬ雨し冬の艸　詠帰
漣もこ波かくなくぬ冬のくさ　南井

冬くさや雪に沈まる蕃の畑　鳩居
枯芦
山かけや灯ハとほくとこ流ら芦　徂牛
かも芦やかそうと沙の乾く青　石光
枯芦をもつれて寒し青以寒　三麿
かれ芦や田にかゝるゆる交耕し　比呂律
狐なく岨田の枯芦かれにけ雪　東壽
枯蓮
枯蓮を踏しくるや時行医者　みち彦
かれ蓮や鳥の沈そふ紀の中　孤山
枯蓮の雨見くしとふや雪の坊　芳居
麥蒔
麦まきや百まてまる白くうと　蕪村

志ろや恨ミ麦まく末の砂ちらけ　白雄
麦蒔や紙の家鴨のうへ流まで　蕉雨
なへ鶴の代もかるかや麦をまく　双湖
そた刈に芭かれた滝のうへ　みち彦
蕎麦刈や殆てまゝ成る赤とんほ　年緒

蕎麦刈

笠忌しハ旅人なるし大根引　其堂
船頭の年にいらぬ日を大根引　杜葵
暮遠し大根にふさく冬の門　禾木
世移つるの子も抱ふ日や大根曳　梅溪
大根引やそハ朝日のよみてこそ　冷水

蕪

おりひしか鷹のうしろの痩蕪　白雄
相手や蕪のうしろの薄まゝ　みち彦
おく山まゝ流日和やかぬらり　蒼虬
何つらへて彩の月夜か蕪をさ　志けせ
百ゐまゝ味ゝ来れかゝらり　何丸

干菜

みの魚れかけ菜をくふ志つかさよ　白雄
其き魚の頃かけ面や狗なし菜　春鴻
こき人の美や干菜に嫌ふとけ　其芳
なし菜けるの山家ハ多らしき　太郎彦
古うちや蕪引出してなくかるす　来耶

葱

蕙の香や屋ニ[illegible]と[illegible]ふ[illegible]ことし　月居
蕙付さく[illegible]刈萱打くへこす　井左
面ニ[illegible]ふりや[illegible]の付　魚と皮
凍ちくよ[illegible]ぬ蕙の白さくだ　亀丈

木葉

十月の旅[illegible]ハいかな木葉ふる　故友
[illegible]て[illegible]桃[illegible]す木[illegible]だ　捍歌
ちる木葉[illegible]ん[illegible]ひ[illegible]ひ　五縄
[illegible]ハ木葉ふる[illegible]ふり　為梁

落葉

来て[illegible]く[illegible]つくし落[illegible]の中　田都喜
[illegible]子と[illegible]や落葉かく　蓬仙

さ[illegible]しさや落葉[illegible]る科理くさ　凡二
落葉[illegible]宿や[illegible]しの苗　松蘿
面[illegible]馬の屋[illegible]落葉[illegible]　女
[illegible]屋の水の[illegible]ちるもこち　[illegible]彦
ちる[illegible]葉[illegible]も老[illegible]　歩簫
ちるやも[illegible]家[illegible]ぬ[illegible]　石雞
落葉[illegible]葉の雫[illegible]　桃生
[illegible]夕の[illegible]ちるもこち　[illegible]女

冬木立

[illegible]笹[illegible]片[illegible]や冬木立　茶陵
[illegible]徒の来て鹿[illegible]ぬ冬木立　旧友

籌先きてこそも然しき冬木だ　女木波も
鹿のまゝる冬ゑこえけり冬木立　草芝
冬木立小鳥の翁ハまゝくしは　梅壽
抱てゆく鶏なくや冬鳥原　袁丁
痩木鶏のやきてかれ多す冬鳥だ　右雄
冬の鳥や片つゝ燒し古草鞋　古玄
水主の子秋日南又なきし冬鳥だ　菊歳
鼬の小鳥たゝ居るかれ鳥かな　蕪村
夜に入たゝな山りなる冬鳥かな　雪雄
人家こえていよ〳〵さむし枯鳥原　痩菊

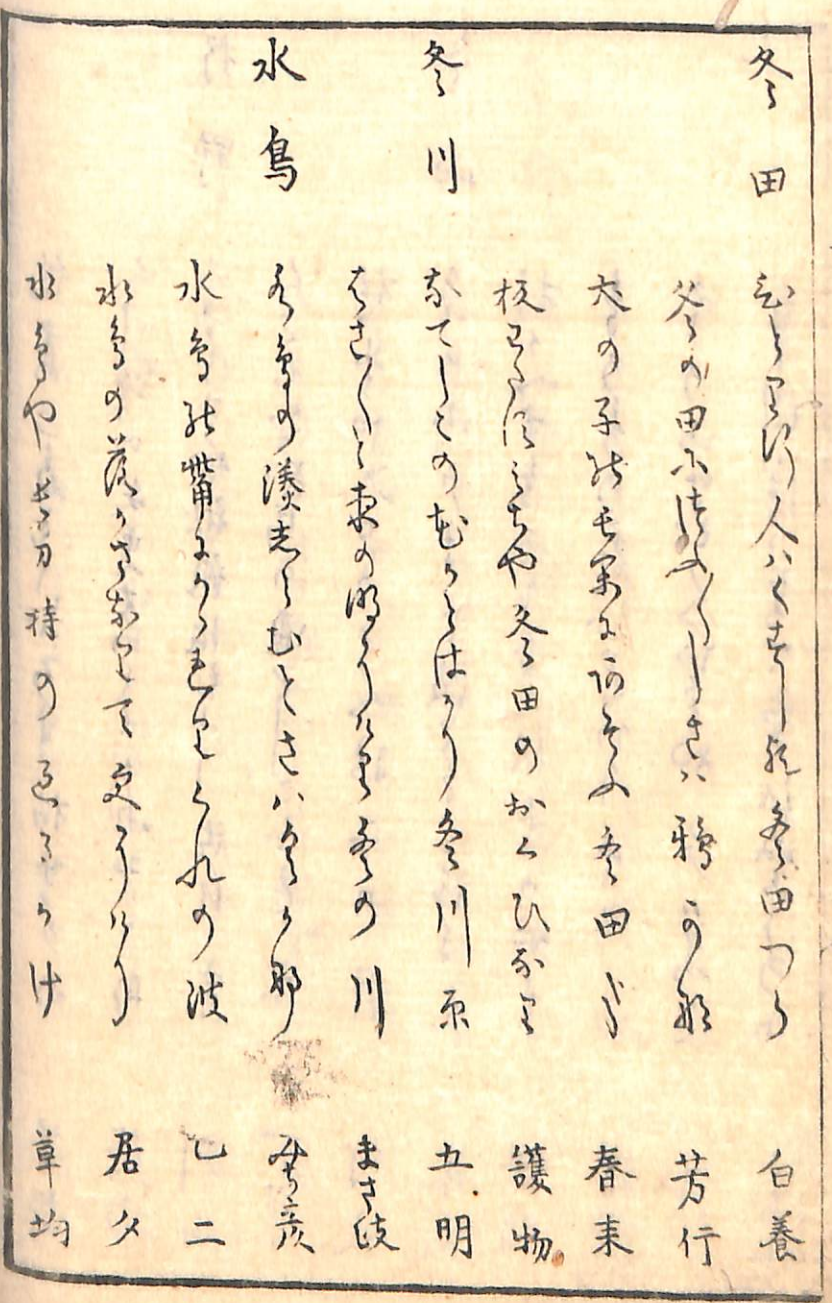
冬野

枯野

稲妻の夜とくおろす枯鳥かな　茶静
ゑし冷の矢先たつまかれ鳥かな　葵市
くるゝ鳥や秋雨治むとり古は家　訓山
くるゝ鳥や馬の通りこなも米　一巣
枯鳥や入日のうへ秋二日月　竹坡
冬の山戸にたさ波にくゝゆるく　嵐丈
打かへす鳥にもくりれ冬のやり　梅関
鳥の鳥の霜む日もかけり冬の山　菩野
冬の山まむ人にかけるや夕ゆふ　千枝女
むとゝ川ゆゝ鳥て走まひぬ冬の山　さち雄

冬山

冬田



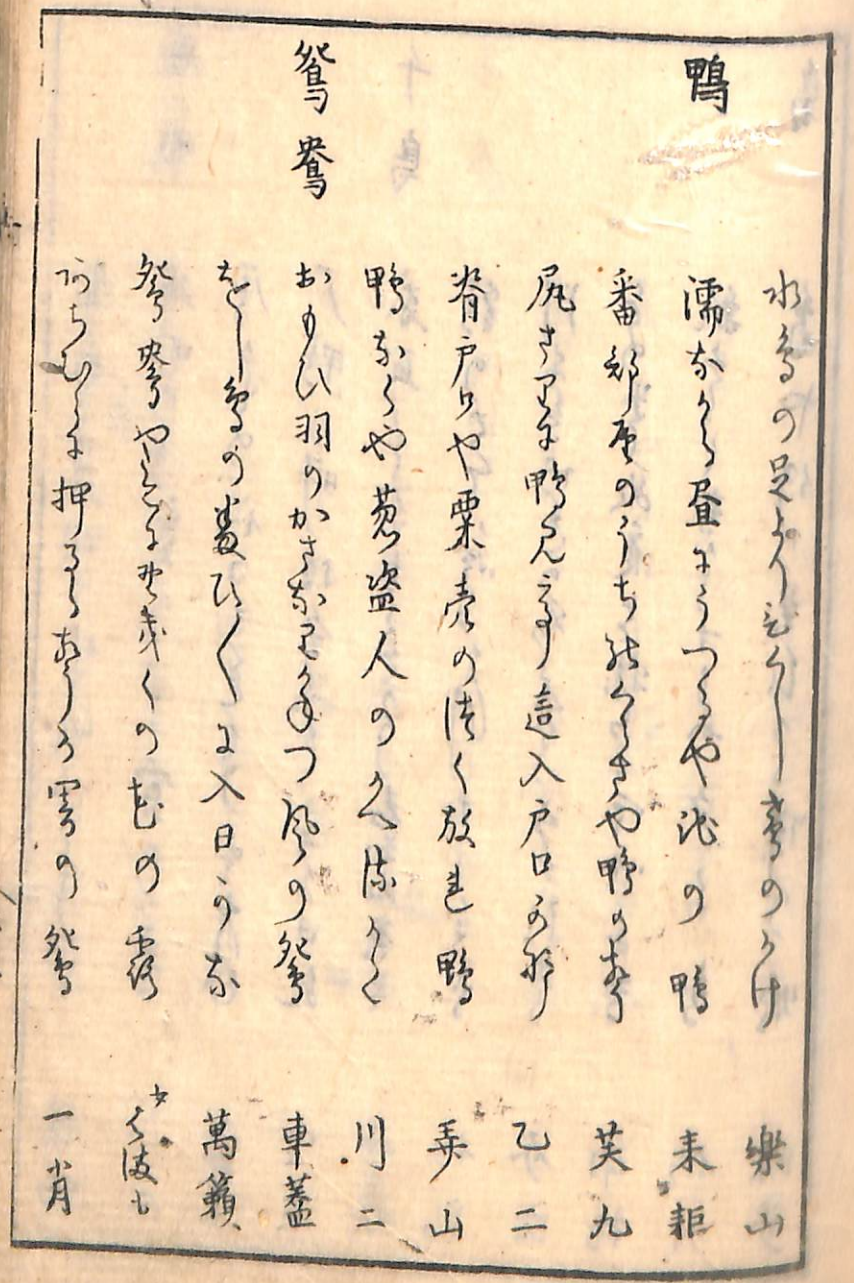
[illegible]人ハくさしき冬田つら　白養
冬の田ふ法ふくしきハ鶴の形　芳行
大の子ハ毛栗ハ所そふ冬田ゞ　春来
板ゐるほうちや冬田のおくひなる　護物

冬川

なてしこのむらとはかり冬川原　五明
たさくしと東の明りはる冬の川　まさ岐

水鳥

冬鳥の湊走しむとさハ冬の那　冬彦
水鳥ハ鶯にかゝるれの波　乙二
水鳥の蔵かさなるて更しけり　居夕
水鳥や其刀持の返るかけ　草均



鴨

水鳥の足よりしたゝし鴨のかけ　樂山
濡なから昼にうつるや池の鴨　来耜
番郎屋のうち社くしきや鴨の鳥　芙九
尻さゝ鴨ハ鳥ハ這入戸口の形　乙二
脊戸口や栗売の法く放き鴨　弄山
鴨なるや葱盗人の久法かく　川二

鴛鴦

おもひ羽のかさなるつ風の鴛　車蓋
たし鳥の裏ひくに入日のな　萬籟
鴛鴦やとゝに鳥ハくの色の霧　女く波も
かちむしに押るゝあしう雲の鴛　一肖

鶯鶯の二羽つれて明けしが　護物

雁鴨

雁鴨の鳴出ろけし上霄の雲　乙二

雁かもの徑はなきまつ冬雲も　太郎彦

千鳥

厂鴨の畔持合ふて蒼る日光　雪彦

家耳と千鳥とそうり志家ぬ夜そ　みち彦

鶴のたてハ鳴かれ川ちとしらず　伯先

川千鳥何處のたるおうたるおきす　介立

その業ぬ夜を探ちして鳴千鳥　南鵠

瓢きくしきうすくに夕千鳥　仙舟

鳥

鳥や行の業ひかる陳の姫　蝶夢

あくらうや佛は十夜を鳴あかす　春鴻

鳥もかしハ枯その体ぬらく　冬彦

罪の有き良しく昼の鳥の有　竹児

鳥かしくさめとくや何ちら向　蕉雨

木兎

木兎引の身にも大事の月日ぶ　乙二

みつくの字飲て居る木兎の有　宇橘

木兎や夏ゆく里の鶏くたる　茶静

そしはくや含有き夜の手立を　禾木

寒苦鳥

寒苦鳥さまかに昼ハなかれぬの　葛三

足かける木もはらくし寒苦鳥　竹児

山郁の木に穿そめぬ花ゝ苦鳥　菊後
出のそよ紅木蔭にかゝる花ゝ苦鳥　芳居

鷦鷯

湖の何けたの根本ノ年そ汚ゝね　乙二
一朝も書ハつれ花こそ汚ゝね　葵亭
鷺の家何なと思ふ鷦鷯　北元
なこれゆく青やしこれの鷦鷯　朗光
年そさゝね出口の木槿枯にけり　一雨

冬雀

屋戸にもなしむか山の冬ましく見　亀夫
けされぬハ梅よ雀も冬なれ事　峩山

冬雁

冬に見しアもうけなくなる勞冬　みち長
手ふるもなるとゝ紙雲冬の雁　輪之
無てておろうにする花冬の雁　南井
雁なくや冬の日ぬくさ船處所　竹馬
年もたゞ花さきたゝふ雁の雪　久瓢

冬鳥

薪ゝ見し説もくるや冬の鳥　みち茂
出行てハ冬を呼し田の鳥　三津人
田ハ鶴にとられて花さき鶴の姫　鱸汀
冬の冬鶴も只ち夕くまれ　蘭〻
鶴風や冬の霞の鶴ふれ　白度

冬蠅

ちる雪の香ハ見れ花よ冬の蠅　白雄

冬のたへ昼ひと時の菓木なし　玉珂
稲塚や夕日無ひ冬の鱷　素廸
世の中をつきふて吾もて冬の鱷　文貫
冬の鱷人にもよらぬ　ひとひ　巴丘
一粒のひとれなし　鯨の形　袁丁
一のもの二の徴　冬のあらしぶ　詠帰
鯨切るさハきに風ハ和にけり　枝技
鰒さけて竹の中にこれの子を　白雄
新市や河豚のなり日ハ風もなし　吐月
ふくハツ来て見せるや　ひとふ魚　乙二

鰒汁

鰒うりやうき世のるまハ志らぬ魚　袁丁
刺息を見ぬ者も老や鰒くらひ　こち彦
老か代の人並ひけりふくと汁　篤光
鰒くふて生もれ杉の月夜ぶ　阜二
大津絵の鬼も歌くう鰒の猶　東一
ぬく笠ふ絵ハさこぬの嘲か南　旧友
杜父魚

杜父魚や能因なりし二下魚にきん　孤山
かくふつの箕に沫ぬく夜ぬかな　一肖
杜父魚ハ夕月志らぬいのちかれ　護物
生海鼠

生海鼠うり新酒なんとすく色けり　春鴻

をとこなへしたとは志つけき生海前に　友囲
笑ふ門へ投こんとけなりこそ　阜他
ゆらくとなりのそ行きぬ生海前に　扇和
深なまと月の木葉に對しけり　麻交

杜蛎

ちらなやむきをしたる雪の杜蛎　保吉
石花抱ふ浪にも玉まのけしたとそ　士朗
うさむ孫るるまもなれば二日月　掉歌
世にたとのさても波るの蛎むらし　[illegible]
いと杜蛎や芦ばとく家も妻もちて　栄枝

網代守

けしろをる鼻の先から朝ならけ　雨麥
かりふるあまどもそえば何しろす　芳竹
いまてを繋よし山をあし行す　東一
射ぬ弓のかしも砂は網代守　隼丈
けしろすそもあらふまへ多き　孤山

紫漬

ふし漬の志川をも飛く小舟とな　乙二
罧の魚をめくしとはられたる　玉珂
とくほとけ紫漬に月ハよりも多め　[illegible]雄
雪けしも罧のつくハとはまし　護物

夜奥曳

夜奥引や犬のとくむる蛎のうち　蕪村
いのなりも犬も東奥のまをしを　曾逸

ワラハやれ鶯をかくし夜奥の曳　一肖

霜月

霜ふるの霜のそれ天よりもなき山　玉珂

霜月や百姓ちかる山の皺　蘿月

志も月ハ南天の実の日和かな　左学

霜ふるや風むくしまの浮る山家　夢南

冬至

冬至なとゝ知てる波かな小里じ　生彦

刺皂莢おもしろき冬至かな　南井

象丁とおもしろき冬至の門田じ　茶静

日のうけは不二の聳へる冬至じ　竹馬

くちれしの冬至のくるを黄ふけり　孤山

髪置

かゝ金やかの通陽もそのまゝし　尤簾

髪置の供とも見えたる草羽織　女 何信

神楽

米の糸のたる蓮かれ神楽の庵　万和

鳥のたゝらくとたる神楽かれ　菊裡

木兎の鳥ハ灯のさす神楽じ　女丰 岐山

ふきおしくせるは呼りかくら笛　美迄

神楽海て雪の山月たゞ淡也　艸大

子祭

うへもかきし黒煮牛房や子灯人　みち彦

子祭に清の蜜かうへけり　律山

子ノ飴の餅にも換よ子燒人　護物

吹草祭　きらしに以草ゑもるるのこり　輪之

ゑるる以草蜜柑ニ入きハ下ゑりしさ　孤山

以草場も乗る夜更勢自立の灯　護物

御火焼　御火焼やゝハ行ゑる神の龍　一草

法火焼の長ゑる鳥や蒼金足袋　禾木

きさうに居る鵜沼屋ゑ火焼ゑ　雨蛤

空也忌　空也忌ゑ手持ゑ取りし泊ゑ　葛三

空也忌やくらき方より出ゑ出し　空阿

空也忌に来てあし祢ゑ麻の屋　碩扇

鉢敲　鉢の葉に書も勢そん鉢きゑき　真栖

そちきゑ拈ゑる木より生けし　松急

木枯の身ハ絶ゆし上そちきゑき　伊勢　虚舟

奴とんゑゑ奴に生まや鉢こゑき　鵬翅

雨へ行　切のゑの家也そち　護物

寒念佛　夕ゑの夜やけそれて居也そ念仏　鉄船

寒念仏拈おてしこそ蹈こうゆく　万壽友

朱くと祢る夜を持て寒念佛　雉扇

木兎の耳にもこさゑ寒念佛　曲阿

ぬけゑ歯もあハ生ゑし寒念仏　石芝

報恩講

[illegible]月　[illegible]
馬さしら淡さらさよ郎　霜月　乙二
[illegible]と魚呼ぶ　[illegible]月　蓬山
[illegible]布衣[illegible]　[illegible]月　[illegible]
[illegible]の葉[illegible]　[illegible]月　長翁

芝居見ヤ

[illegible]の幕に夜半の[illegible]　蕪村
[illegible]の[illegible]の味　孤山
昆布の[illegible]　[illegible]　碩翁

雪

[illegible]　[illegible]待　枕[illegible]
雪[illegible]　[illegible]　茶来

雪の日や尺[illegible]の[illegible]戸口　巴堂
[illegible]雪にして[illegible]山の家　夜江
[illegible]里や[illegible]雪[illegible]家の体　節志

雪國

雪[illegible]大[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　月居

雪用意

[illegible]　夢南
[illegible]　五貢
[illegible]　東一
[illegible]　川二

雪見

雪[illegible]　屋烏

舟よりも馬かりにけてし雪尺ぶ　平馬
桂子なとゝふてもとる雪尺ぶ　家鶏
稱ありしさへとゝめたる小雪かな　かゝ女

夜雪

江の雪や翁ちさや夜のあり　宇洋
さゝしさや二度目の雪の夜明ゝ　五芳
詩ゝは嶺れかゝる夜の雪　禾木
翌もふるものとて稱るや雪の船　李峯
刻川が漆食さはかし夜の雪　女茂木

雪吹

宿かせと刀なけ出れ雪吹り南　蕪村
曙やゝ雪吹こゝえ勢書の山　保吉

雪の巣ゝこゝれる雪吹ぶ　巽我
みの出の桔梗まゝふ雪吹ぶ　起石
恒の井社山吹ゝれるふゝさぶ　利根古

志巻

雪志まくそふりもきぬや車牛　玉光
桔梗し川原柳や雨しまき　みち彦
雪志まきし雅くもなかて鶯よりる　炉扇
消まゝそ霰の青かうそるなる　乙二
笠ゝるまや瓜先ゝかゝらゝ老花　嵐兆
鶯の地枕しまる霰かな　有月
久ゝのなかもしつされ玉ゝらも　梅壽

霙

山松の木てくけとる所に霙ぶ　蕉雨
多しくと年の座ふるこそ如ぶ　みち彦
鮭の眼孔鶏にぬかるに霙かな　守三
みそるゝや草檣の実ハ赤し　雪三
芦の葉の青も霙の夜明まで　鶴光
宿さなやみそれに向しつるの面　草夫
拾頃か一の霙にや氷るとし　袁丁
俎にしなまこの青やうき氷　茶静
折くへるまゝが畳の氷をかり　普記
さむしろや鶏なる俗の簑氷る　淡翁

氷柱

氷るかと頼りへさきてを墨の砂　壺山
山里を月さし松も洗らるか　芳之
多きしのなりてるる氷柱ぶ　今し
氷柱すゝ栗をにかるや家の煤　亀丈
洗らせる雪の山家の煙出し　孤山

凍

猿人ハ菓鞋に呑し芝の凍　みち彦
凍る日や鹿の中の魚のまた　玉珂
いてる夜の水にも志そし玉の川　禾木
蘇かへ手に洗ひ凍る塩かな　一肖

雪車

雪車にても生人出るこゝろかな　菓兆

祝ひ日や門に並びし雪まの数　竹吾
雪まの道ゆきのちかくもかくれに　東鶴
山町や雪まに[illegible]梅の秋　晋峰
雪車引や[illegible]遠い　聽雨
城[illegible]梅のうちに星光る　白雄
[illegible]族人梅を[illegible]　保吉
酒[illegible]里に入日のかし[illegible]　春鴻
月[illegible]梅[illegible]　石芝
薮鶯の日[illegible]の梅　環阿
[illegible]の梅　呉莠

寒梅

山[illegible]梅　草夫
[illegible]梅　玉光
[illegible]梅やさし出[illegible]　古樂
[illegible]梅の二本[illegible]　篤光
[illegible]梅[illegible]　一肖
[illegible]梅　乙二
人[illegible]　雪雄
小一月さく[illegible]梅　對山
[illegible]梅　魚文
[illegible]梅　護物

鷹

宵の燈やすえをむけたる夜の鷹　春鴻

鷹なくや何かふりくる背戸の山　知及

ふりむけて志ちらく鷹の居ませり　輪之

川上へ折かへしけり鷹の鷹　楚撻

鷹狩

鷹川や鷹無の体を鷹の鷹　白雄

翁鷹に鷹なんさかり雨明と　乙二

鷹匠が来るとしけるや山の月　篤光

無ふくや鷹の鷹のこつむ時　文晁

むかふ日や一ようすとし鷹のつら　護物

燧鷹

とみかくし夜ハ鷹きものぬく火鷹　無説

山ちかく何をもとりしや暖め鷹　乙二

鷹のきぬものの準備そ勢ひ鷹　扇暑

かゝ鷹も月何ふこちらぬくめ鷹　祇白

放つは鷹の眼やさし　燧め鷹　抵生

鳥叫

鷹叫ひ物水に流まく鷹の巾　春鴻

鷹叫やさつとこなまく芦のこゝ　孤山

鷹さらむや僧の修行のとく都て　一肖

鷹叫や草にくつまく水煙を　護物

落草

落くさや鷹かけの鷹の涙くん　春鴻

落くさに物まく風もおきられり　双湖

力草

その青ハ花にくれるやちからの草
草さくまもの後にも力くさ

師走

日ハ来つとるの海のむ師走ぶ
さくさものや師走の花の色さし
宮明の鹿おに入し師走ぶ
居並ぶや人の師走を海のつる
けちに和のことも師走ぶ

川ぶとを

秋葉のかしさ砕きつ川ぶとを
物見さて羽織に箸を川ぶとを

石雞
菊後
袁丁
孤山
茶静
茅丸
松國
石芝
碩氣

臘八

貫之に下戸の海清なし川ぶとを
猟ハや夏人ほとゝ水り之海時
猟ハも知らて旅ま海男の形
猟ハや峯の新日の雀しきす
丑くまれに猟ハいふ花小作城

佛名

僧達もかくてハきてし仏名
罪ハ祝さくるや雪のうつけ孫
心そやりに鼻うち そして仏名
仏名や笑ふるかに波のうへ
柳の葉を清む人さへや仏名

護物
大樗
茶静
槙立
一肖
暁臺
柳九
諸九尼
夢南
護物

事始

[illegible]

千柳

美作 梅人

烏旭

曲阿

月一

松兄

[illegible]

樂水

双湖

文貫

入寒

[illegible]

寒雨

大名のたゞくハ知らぬ寒の雨

扇をも隣もちかり寒の雨

鮒あふる井のまさやの寒の雨

[illegible]

玉珂

袁丁

呂川

亀夫

寒月

寒月やに鶯の宿もするにかゝる

寒月をかゝるや産湯焚さはゞ声のひつゝ

寒月をかゝるにてくさむ山家かな

[illegible]

寒の月青ゆるものと思ひけり

[illegible]

乙二

志けま

喜山

晋峰

尺城

吐月

藥喰

[illegible]

[illegible]日こそふさ日ゝ[illegible]案くひ　五明
[illegible]の[illegible]しまへ　茶喰　春鴻

乾鮭

[illegible]鮭やこそてあるる人の老　車蓋
乾鮭も淵水の浪に活りへる　士朗
[illegible]や乾鮭[illegible]の行　[illegible]
乾さけは松葉をさく家の娘ぶ　乙老

年内立春

年のこちに[illegible]日の[illegible]　柳几
[illegible]のこちに[illegible]青むし[illegible]　士朗
松賣も来ぬ[illegible]　俚言
年のこちに松ハこまし[illegible]　素檗

追儺

[illegible]越の[illegible]　魄汁　みち彦
鬼を追ふ[illegible]　葛三
[illegible]　玉光

拵賣

[illegible]町や傘[illegible]　南井
二度[illegible]　巴人

節季候

[illegible]　輪之
猿川[illegible]　泉之
[illegible]　玉珂
[illegible]　孤山
[illegible]　石芝

焼等

焼木ふくし花うつくと云もきは　みち彦
芸香のそれきへ[illegible]焼木[illegible]　梅溪

煤掃

煤はらや山の家蔵のやと　三津人
煤掃や川をうしろ[illegible]家　興山
すゝ掃て[illegible]四隅のはしらぐ　茶静
煤の家野一日光りつけ[illegible]　姜とし
煤の日や五反屋てし[illegible]の代　鯉隠

餅搗

をしらも来れ[illegible]屋やもちの書　みち彦
餅つきや梅を[illegible]書かする　梅兮
もち春や例ましてくる[illegible]坊　壺半

衣配

[illegible]の香もそれ[illegible]　さち雄
[illegible]　吐月
[illegible]雷の妻のたゝしや衣くたる　平角
きぬ配[illegible]漂母の信の沙汰もきす　東皐

年市

年削る[illegible]買んこれの市　みち彦
余さぬや[illegible]も兎も年の市　白養
[illegible]草[illegible]年の市　[illegible]
年の市[illegible]面[illegible]　知昨
もとし[illegible]の[illegible]年の市　茄川

年木

[illegible]のすむ山ハ[illegible]　[illegible]樵　鶯邨

大竈のうへり年木の雪ゝ取　行児
年木ほしたりや雪の杜若　和調
鶯の糞うきこむ年木ぞ　年守

年用意

子ゝ家の洗濯干ぬやとし用意　[illegible]
鄙ぶりや掃一枝も年用意　根蔓
人ゝ[illegible]木ゝの家のとし用意　宇橋

年忘

年忘廣ゝの鶴を見ゝ行ん　樗良
うき恵に似しかつきや年忘　青蘿
年ゆきれ行ハ風もつ夜ゝけ足　太柏
二夜とハ子に志のひかり年忘　月守

古暦

古暦十日の菊ゝしこうされ那　夢南
暦古し栄鶴の尻の巻ほめて　可磨
[illegible]の使足[illegible]て古暦　栄枝
年よれて明友なし[illegible]暦　柳美

春待

春まつりやまゝ庵に[illegible]の[illegible]　[illegible]
春を待昭に乙[illegible]の古巣ぞ　藻路
一[illegible]春を付ぬ[illegible]　[illegible]金
春まつりや芹の[illegible]の麦の畔　石海
正月を[illegible]麦[illegible]子　玉光

来春

春のくるロハ[illegible]子床　存義

戸口さへ何もしきまく教まつの風　鳥口
来る春の後ろをするか丘の草　淡水

行年

於く年や夜も出しおか勞れの風　蝸國
行年のむに冥かしうゑ樣　櫟廬
ゆくほや深田にまする鶴の鶴　古岳
鶴も鳴て行年の人質朴なる　遠江　五雲
行年のたゝれに近くき董家で　鹿阿

岡見

費しこ日をかそゆるも高見かな　葛三
清らかし迷ならん高見かな　夢南
番鶴に高見もとりをいやしむ鶴　護物

年籠

何もののゆるかも志らはとし籠　如斯
眠けれは梅を見に出す年籠　焚狂
とし籠んをちらは積もなし　竹児

歳暮

小窓からみてもらゆるや年の暮　孝彦
くまて行年や鯰のゆらぎ法こ　卓池
少しの暮兎も耳をたてにけり　其白
箕かりし里もなつかし年の暮　可盈
持古の長にもてなされけり暮る年　茶静

大年

大とし人のにくらるゝ居　白居
大年や法連にうき法に花の健　古玄

大晦日

小夜の村子さゝらや大晦日　詠帰
むつしつゝ　ほまさの海老の髭　一峩
かゝるの前の来るそ年の霄　今彦

年夜

年の夜や業に住る　[illegible]　乙光
とりの夜やすの旅人出て歩り　鷗里
年の夜も知らぬ白すかな良冠去　痩菊

除夜

ゆくしやと尺れたゝえなり除夜の梅　樗良
松かをや除夜の枕を来をん　保吉
夷ぬを翌日去をり除夜も定りる　孤山
尺すくも翌にかしなり除夜の梅　護物

春

追加

暁の柳その夕をまくらなり　村濃
うらはすや松とこの人ぬりふ朝　亀女
花に紫のかけかさ孫なり福寿艸　少女栖霞
下地の呼吸老川なし梅の花　雨休
盃にまてあをうけて梅林　鮭井
柳にもや松ハかたらぬ人の成　佳夕
霞の芽かきのふの柳ともこえぬ　六旨
老て先のもやハ明なりかとくきに　新賀
花よりも清き星とりこそ叔　雨休

秋

五月雨や菓の味かくるまゝ[illegible]　楓所
鹿の子のまゝなきけしうしろ淡　其壱
このまゝ五合の室やかつ氷　杜成
苔清水[illegible]　六旨
夕立やふと知りしもはきふの用　山花
酒星の[illegible]　一賀
世の中ハ味くへてこよきの蝶　浮我
たつ花やきのふハ霞の[illegible]　再可
[illegible]　百里
[illegible]　佳續

冬

虫の用猿[illegible]　萬山
蓮の実[illegible]の月　雨休
[illegible]　村濃
[illegible]　六旨
泥亀を[illegible]　萬山
麻笛や人の[illegible]　百里
[illegible]　浮我
[illegible]　雨休
[illegible]　万十
白[illegible]　六旨

江戸本石町十軒店　萬笈堂　英　平吉板行

嵐雪句集　全一冊

此しの性質もかくのごとく閑かして寂なれば高に似たるも一事のみにて氷のうちよりも出て水よりもなおひやくかなりと云へし今日に吟して猶餘韻あまれり況や時にとり花鳥風月を友としたる思あはす厚しあく此句集につきて俳諧のたいかいたる風情のふうしゆうたるをしれ

其角髮句集　小本二冊　久藏大人校

此ぬしの吟句々錦なれ今更に何の辨をお待ん爲とこゝにて天地の神をうごのし梅さき千歳の學者也なりは耳を驚せり今此しう一代の句にしてさて玄の玄

あるをそれりいはくよしの山は猶花せやゆがめし先生一代の英雄なりといへ屋どもの集はのこれるをみるまでもなし

蓼太句集　初編三冊　二編二冊　三編二冊　全部六冊

吐月師曾て評す雪中庵蓼太をむせ我の順にさへり其角の花をめらそひ嵐雪の寂を我家なりとあり先生力を一世に按扈てあしれは似たりかり蕉風の正宗を探たこのしらりを見る世の人とち

今古假字格　折本懐中本

古かれを万葉集をしめ和名抄等數本により今かれを定家かれづかひ江戸按正本にとれりかれづかひの便なるハ此書にしくハなし

意の本をいふ　全二冊　薩摩雪庵かえ大人撰

抑御話にまれ[illegible]

[illegible]

人事　[illegible]

婚姻　[illegible]

文件　[illegible]

人倫　[illegible]

[illegible]

無用　[illegible]

買色　[illegible]

神佛　[illegible]

乾坤　[illegible]

江戸本石町十軒店　萬笈堂　英屋平吉板

聖和學園
藤 短大 號
63/3
受入
昭36. 3. 14 印